

水源禅師法話集 41

(2014年11月16日 東京法話会)

2015年10月21日

一乗会



願いをかなえる西を向く西方の仏 (バガン)

目次

水源禅師法話	1
瞑想の仕方と作法について	1
2014年にミャンマーで振り返った受随観	4
阿弥陀仏・カクサンダ仏と水源禅師の因縁	5
インレーレイクー水源禅師が瞑想で観た浄土の情景―	8
仏像の偉大な力―物ではなく、聖なるもの―	11
パティヴェーダ（瞑想）によって証を立て法を得る	13
水源禅師の総決算であった2014年の旅	14
マハーカルナー比丘は存在しない	18
嘘八百の世界政治	19
正しくないことに手を付けてはいけない	22
質疑応答	26
ブレインウォッシュ（洗脳）―インターネット、携帯電話、テレビ、原発―	26
いかにして本当の心の究極の世界に達する瞑想指導者をつくるか	28
瞑想は最高の先祖供養	30
受随観の仕方について	33
インタビューの大切さ―現象について―	34
本当に体得した瞑想者から習わなければならない	37
ほどほど楽しくやってください	40
パオ森林僧院モーラマイン本部では登録されていない日本道場	41
死ぬと心や感情はどうなるか	51
合宿に来てください！	52
仏像彫刻はすばらしい禅法	52
死の恐怖を超える法―嘘をつかず、人のために尽くし、真面目に正直に―	53
浄土禅（念仏三昧）	53
禅でのニミッタ	54
ただ楽に座る	54
体得した人は原曲を話す	55
人間がまた人間に生まれるには	56

水源禪師法話

瞑想の仕方と作法について

私の知っている瞑想方法と偉大な先生方からの直接の瞑想方法をご紹介します。瞑想法は南伝の瞑想法と北伝の瞑想法があります。結局、瞑想とはどういうことかと言えば、心を静かに保てるのが、まず第一条件で、そこに持っていかなければいけないわけです。ですから、もし結跏でできる場合は、それはすばらしいことであって「これが最高だ」ということではないのです。これで10年座っても、法を得ることができなければ、ただ痛みだけの修行であって、意味がありません。半跏でやっても、また同じことで、南伝では、こういうふうに足を前に出すと。そうでなければ、こういうふうに座るとか。そうでなければ、横でこういうふうな座り方とか、いろいろなやり方があります。

一番大切なことは、若い人は、こういうふうに結跏とか半跏とか、やられてもよいのですけれども、お年寄りの方には絶対、勧めません。ソファーでもよいです。気楽に布団の上に座って、痛みなく座れることが条件です。ただ、座禅を始めてする方は、できるだけ結跏か半跏でしてみてください。そのうちに慣れて痛みがなく、30分、50分と座れたら、身心にとっても善い結果を起こします。足の組み方は一回ごとに「右、左」と替えて座るようにしてください。ただ、いくらやっても、痛みだけが強くて瞑想に入れなければ、これは苦行になって「ドゥッカ」（苦）ということで、最初からお釈迦様は進めていません。

ですから、一番難しい瞑想方法は「臥禅」といって、寝てやる修行なのです。これができれば、もう最高なのですけれども、これはみんなコロッと寝てしまう。めったにできる修行ではないです。でも、この臥禅でやった場合には、すごい境地に行きます。8時間くらい深い瞑想できますけれども、一睡もしないのですけれども、感じは10分間くらいです。でも、すごい現象を起こしますね。それで、身体が完全に石になってしまう。棺桶の中の石。だから、仏像を大体、「石で彫る」というのは、そこなのです。5時間か6時間、座れば、ほとんど棺桶の中と一緒です。それで「心と体が違う」ということが完全に分かりますね。臥禅ができれば最高ですよ。8時間くらいになるのですけれども、感じはたった10分間くらい、時間がダーッと止まってしまいます。そこで大宇宙につながってしまいますからね。これがめったにできない行で、一番難しい修行で。

次に「どういうふうにして息を吸うか」と言ったら、自然体、全て自然体。一番よい自然体は、赤ちゃんのときはみんなお腹でします。動物も見てください、必ずお腹です。それが人間だけが、ここ胸呼吸でやる、ハーハーハーと。これで大体みんな病院に行ってしまう。だから、今でも曲がりなりに筋肉を使う腹式呼吸の方に切り替えれば、まず病院は避けられます。これでヴェーダナーヌパッサナー（受随観）をやれば、非常に簡単ですけれども、全ての病気は発生しないどころか治してしまいます。というふうなことをお釈迦様が教えたわけなのです。だから、お釈迦様は「最高のお医者様の王様」（大医王）という名前が付くの

はここなのです。

この法は、ミャンマーにお釈迦様が阿羅漢を連れていったときに、一人はバガンの方に残したみたいですね。それから、南方のパオの近くの大きな町があるのですよ、モーラミヤインではなく、そこにお釈迦様がお連れしたわけです。だから、お釈迦様はモーラミヤインの近くの大きな大寺に阿羅漢を置いたそうです。そこにゴールデンロックというのがあるでしょう？ あの近くののですよ。そこにダンマヌパッサナー（法随観）、法随観を、そこから続いているわけです。それがパオです。レディ・セヤドーの受随観、ヴェーダナーヌパッサナーはバガン近くに、そこに残したのです。二つの法。それで、そこから面々と今、お釈迦様の法が続いているわけなのですよ。

だから、こういうことで眠気があるかも分かりませんが、5分でよいです。できなければ、1分でもよいです。1分でもよいです。ただ1分でも、静寂をもって自然体で息をお腹で膨らむ・へっこむ、膨らむ・へっこむだけ。この頭は猛毒、病気の原因。これはまず空っぽ、全て捨てる。というのは、いくら本を読んでも、これは無駄。英語いくら勉強しても、これは難しい、外国に行って、現地の人と話して、この英語が何を意味するのかが分かることであって、ここでいくら英会話をやっても「I am a boy」とか「What's your name?」とか（笑）。それは基本的なことであって、心の対話は、まず不可能。現地で英語の使い方、それぞれ意味があります。

ということで、仏教でも「まず全ての経典を捨てて、本来、自分の姿に返れ」と、どこの和尚さんでも言うはずですよ。だから、ミャンマーで最大の問題は結局 24 パッターナ、24 因縁をタッタッタターッと、ただチャンティングするわけです。それをまた法話で、タッタッタッタターッとと言うから、もうそこで頭がおかしくなって、ほとんど行けなくなってしまっている。でも、在家の人には瞑想修行の時間を作るのが難しいから、ま、「これでも暗誦しなさい」ということで、今回もミャンマーで大学の先生とか、そういう大学生でも座禅からボロボロ落ちていくわけですね。

ところが、何と日本の人は座れるのですね。いや、本当びっくり。座るということは本当にできないのですね。だから、もう日本にはすばらしい行者がたくさんいるわけです、こういうふうに皆さん方が座れるということで。本当に 20 代でも、パラパラパラって落ちていきます。力ある者でも、ほとんどできないのですよ。それでまあ教学仏教になるのでしょうか。そういうことで、自然体で、一番重要なのは「禅では鼻から吸って、舌を上を上げて、口から出す」と。お釈迦様の一般的な方法は、これが「鼻から吸って、鼻から出す」のです。でもね、「鼻から吸って、口から出す」というふうに慣れたら、これもまたすごいことで、よいことなのですけれども。だから、一番よい方法は、気楽に、気楽に、まず気楽に。鼻から吸って、鼻から自然に出すと。そのときに、お腹が膨らむ、へっこむ、それだけでよいです。

そのときに、私の印幻先生が教えてくれた、今から 40 年くらいなりますけれども。最初の方は、ほとんどクンダリーニの力が弱いから、それから丹田呼吸を勧めるわけですね。それには、お腹をこういっぱい膨らませて、そのときに風船みたいに膨らませたときに、肛門をギュッと閉めるわけです、それで 5 秒、「1、2、3、4、5」としたときに風船を離すみたいにスーッと。これを 5 回やります。これで生命力が非常に強くなります。病気に対抗する力が

出てきます。だから、私は今回、ミャンマー4000キロの旅、20代のカピア（付き人）が病気になって、ボンボン倒れるわけ。山を越え、大変な道路なのですけれどもね。世界中グルグル回るのですけれども。というふうに若いときからやったから、熱い国、寒い国、どこでも行ってしまふわけなのです。

というふうに、身心を開発できますから、今からでも遅くないです。そういうことをやれば、薬をもらわなくても、自分の体で全て薬を出してしまいますから。全ての薬は、この脳でつくるのですよ。それをまねていろいろな薬をつくりまますけれど、全ての薬はここでできるから、実は、すべて病気を治せるわけです。その根源は、ここにあるわけ、心。だから、実は皆さん、病気を恐れることは一つもないわけなのです。私の歯、歯医者に行かなくてもよいのです。砂糖ボンボン飲みます。ま、そういうことで、質問があったら、もう一回してください、瞑想の仕方が、まず初めての方は分からなかった場合には。

【参加者】

正座をしていて、膝が痛くて。

【水源師】

では、そういう人は椅子でよいです。正座で40分か50分でよいですか？無理しないでね。椅子でもよいし、ソファーでもよいのですよ。瞑想で無理は絶対にいけません。絶対に修行よくできません。これはドウツカ（苦）の修行とって、苦ですね。苦は絶対に修行できないようになっています。だから、お釈迦様が、それをやめてスジャータのご飯をもらって、お腹いっぱいにしてから、ゆっくり坐ったでしょう。

スカ（楽）、スッカ（快く）でいかなければ、絶対に壁を破れません。その「スカ」というのは「気持ちのよい」。それは仏様の力も来ますし、それから、天界の神々が助けに来てくれます。私の場合は、龍神様がパオでやったときに現れて、それでダーッと壁をぶち破って、できましたね。というふうに、仏法というのは、非常に神秘的なのですよ。ある程度、来れば、そういう精霊たちが本当に現れて助けてくれます。だから「全ては心」です。それで、「頭を空っぽ」ということでよいですか。

【参加者】

作法が分からないのですけれども。

【水源師】

いろいろお寺によって作法がありますけれども、それは心から仏に帰依させるための作法で、本当に帰依されている方は、実は、作法は要らないのです、全く要らない。ただ仏様に心からお願いして座れば、非常に善い結果が出ます。ですから、仏像を置いておいて、それに、いつでもお花とか線香をあげて、心から敬意を表明するというので、非常にすばらしい結果になります。ですから、私も若い頃は必ず坐る前に、お釈迦様に線香をあげて、ろうそくに火を点けて、それで、その前で坐っていました。

というふうに「心から信心する、帰依する」という心がなければね。それは、どの宗派でもよいのです。どの宗派でもよいものを持っていますからね。決して「人を殺める」ということではないと思いますので、そこで、そのままの宗派でやっていただければ、それで結構です。ただ「心の進化」だけを私は求めて、その方に法伝を捧げたいと思って、私一人だけでおいしいものを食べても、おいしくないのですよ。そういうことで、気持ちを楽に座ってください、無理しないで。できない場合は、あぐらでもよいのです、あぐらかいても。それでもよいです。遠慮しないで、全然、問題ありませんから。

2014年にミャンマーで振り返いた受随観

一年一年、時間が経つのは早いですね。去年から、またすぐに一年。というふうに、人生はあっという間に、何か走馬燈というのかな、クルクルクルクルすうっと去っていきますね。パオで一番難しい瞑想法は「名色」を通過した後の「前世」を観る行なのです。この前世を最低6回観て、そして、これが本当に観たかどうか、名色、ナーマ・ルーパ（心と体）といます。どういうふうにつながっているか、正確に答えなければいけないわけです。だから、もし天界に生まれた場合には、天界の物質も説明しなければいけない。というふうに、パオの方では間違っても、それはそれで放っておきます。何も言わない。というのは、そこで「それ以上、進まない」ということになるから。最終的に全部、通過した場合には、これからいよいよ「ヴィパッサナー（観）を始めます」という奥伝を渡されます。

ま、そういうことで、日本では非常に、このパオというよりも、お釈迦様の法随観、ダンマヌパッサナー（法随観）という「四念処」「サティパッターナ」の一法なのです。ミャンマーにはなぜか、この二法が残って、ヴェーダナーヌパッサナー（受随観）、受随観、レディ・セヤド様が比丘に教える、その教科がミッシング、なくなっていたわけですね。というのは、在家の方の半分ぐらいまでは伝えることができたわけですね。それをゴエンカさんが世界に弘めて非常にすばらしい結果を出していますけれども、それで今回すごいことが起こったのは、なぜか私がスリランカで、この秘法を受け取ったわけですね。

結局、「涅槃に達した行者は、この涅槃界に住して、俗世とは関係なくなる」と、皆さん言われていますけれど、実はそうではないのです。涅槃からも、こっちをザーッといつでも助けてくれるわけなのです。ただ、その涅槃の世界に行けば、一切の苦・ドゥッカというのは発生しませんという、すごい世界なのですけれども、「それを説明してください」と言っただけで、それは無理。また説明したら、これをまた悪用して、もうドンドコドンドコつくり上げるから、これは極秘の世界です。ただ今回、私が最高の礼を受けたのは、パオで第一という誰もが認識するこの方が、4日で結果を出しましたね。「何を観たか」と、「なるほど」と。という受随観を、この方は完成したわけですね。それで私の体得したことが間違いないという結果が出て、これでまた法が消える寸前に、ミャンマーでは受随観が振り返いたわけですね。というすごいお礼を受けたわけなのです。

阿弥陀仏・カクサンダ仏と水源禅師の因縁

ということは結局、ミャンマーでは一番大切な仏はカクサンダ仏（拘楼孫仏）なのですね。一番古いストゥーパ（仏塔）、お寺はカクサンダ仏陀で、シャン・ステイト（シャン州）というミャンマーの非常に奥まったところに2400年前に建てられたお寺（一説ではキング・アショーカのときに建てられたお寺）で、お釈迦様が涅槃に行かれた、その100年以内に建てられたお寺なのです。そのお寺に入っていくときに西から入っていくのですね。カクサンダ仏、その後、コーナガマナ仏（俱那含仏）、カッサパ仏（迦葉仏）、ゴータマ仏（釈迦仏）・お釈迦様。お釈迦様は南に座っているのですね、北ではなく。ある時代によって、これが全て逆転してしまうのですね。見方が違って、外から見るとか、内から見るとかで、違ってしまふわけです。

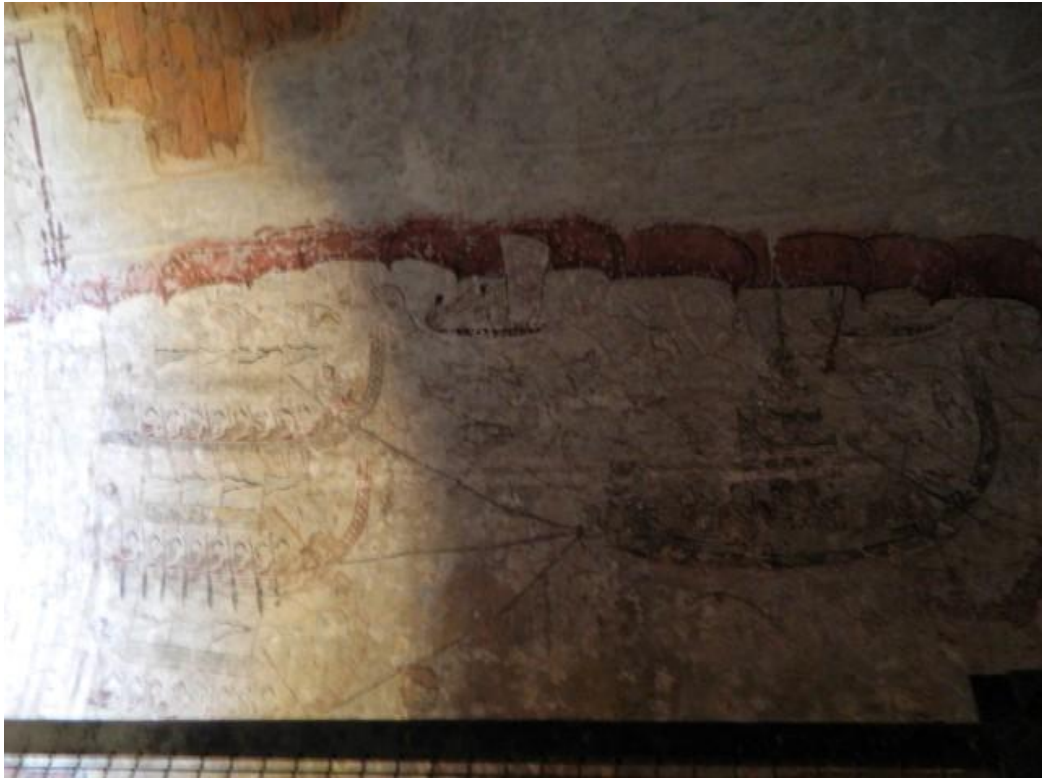
だから、一番有名なシュエダゴンというか、「四つの仏の遺品」がヤンゴンにある、非常に高名なお寺がありますけれども、そのときは、カクサンダ仏陀は東に座っているわけですね。東に座っているから、西を見るわけなのですね。ある時代から逆転してしまう。というふうに、時代、時代によって見方が変われば、仏の位置も換わってしまうということで、最初は全て扉が西の方から入っていく。それが表玄関、そこにカクサンダ仏陀が座って、それで、カクサンダ仏陀は、やはり赤い色なのですね、阿弥陀の色。「阿弥陀の浄土の思想」ということで「2000年前から中国で発生した」ということになってはいますけれども、実はもうたぶんカクサンダ仏陀が供えられているお釈迦様が来た、その当時からもう「カクサンダ仏陀」「西の仏」ということが非常に重要視されていたみたいです。

その奥地に行ってみたのですが、すばらしいお寺で、めったに行けないところで、ミャンマーでも超大金持ちが行けるか行けないかというところで、時間もかかるし、車も使わなければいけないし、そういうところを、なぜか案内されたのですが、涅槃の船（易行道）があるわけですね、涅槃船。それで、もう一つは涅槃象（難行道）があるわけ。涅槃に乗って行ける象があるわけ。だから大乘船とか、そういうことが、ここから出たことがすぐ分かります。「船に乗って行ける」という。

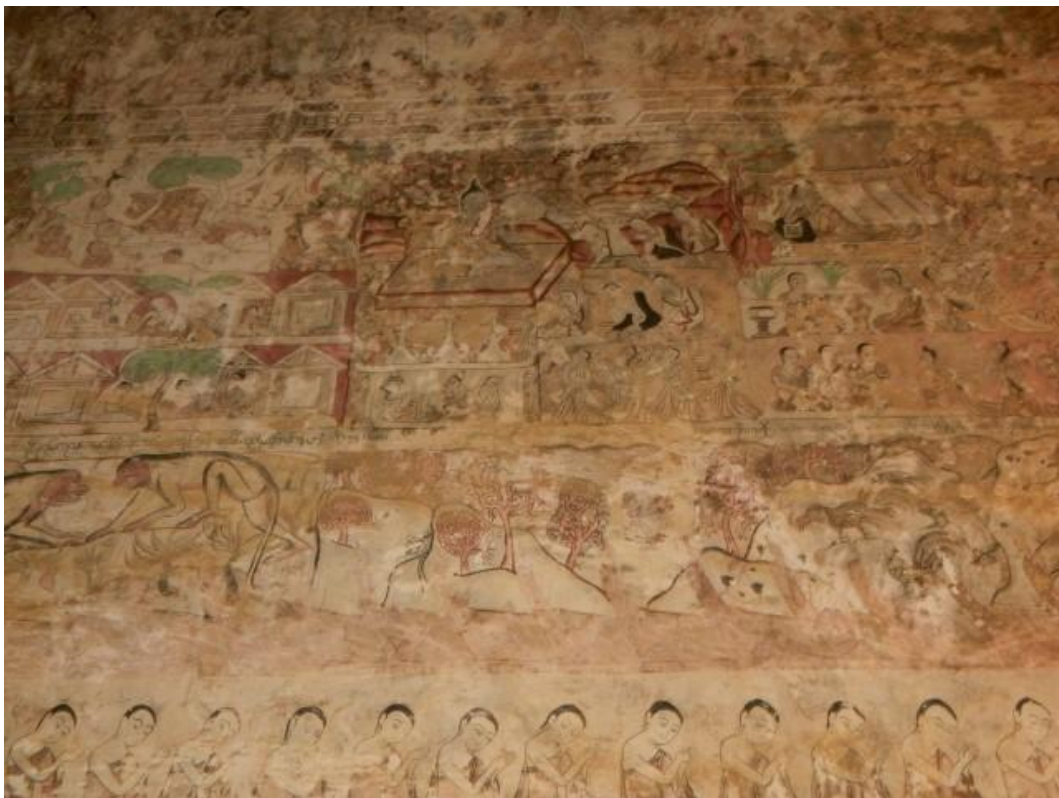
また、「浄土」といって、それは空想であり、ある禅師は「心にある」なんて簡単なことを言っています。思想で言っているだけです。この宇宙はですね、今100年前はパロマー天文台で、この銀河系だけが宇宙だったわけ。それがどんどん広がって、今はハッブル宇宙望遠鏡で「どうも他の宇宙体があるみたいだ」となったわけだ。お釈迦様は2400年前に10兆の宇宙体があると、全宇宙が。現代の最高天文学は、どんどんそこにつながっていつているわけ。というふうに、禅師とかマスターといわれる方は、結局、西洋の宗教哲学に溺れてしまって「心にある、心にある」と、そら心にあるのだけれども、心は宇宙より大きいから。それでボケてしまうわけですね。明快に説明することが必要なのですね。

というふうなことで、なぜ、私が今回ミャンマーに呼ばれたかということは、18代前の前世にカクサンダ仏陀に遇ったのですね。それと2012年に神護寺で灌頂を受けたときに華をパッと落とすわけですよ（投華得仏）。目を隠してスットンと。それが弘法大師様の場合は大日如来に落ちたわけなのです。何とそれが阿弥陀様なのです。





バガンの大乘思想の壁画



バガンの浄土思想の壁画

インレーレイク—水源禪師が瞑想で観た浄土の情景—

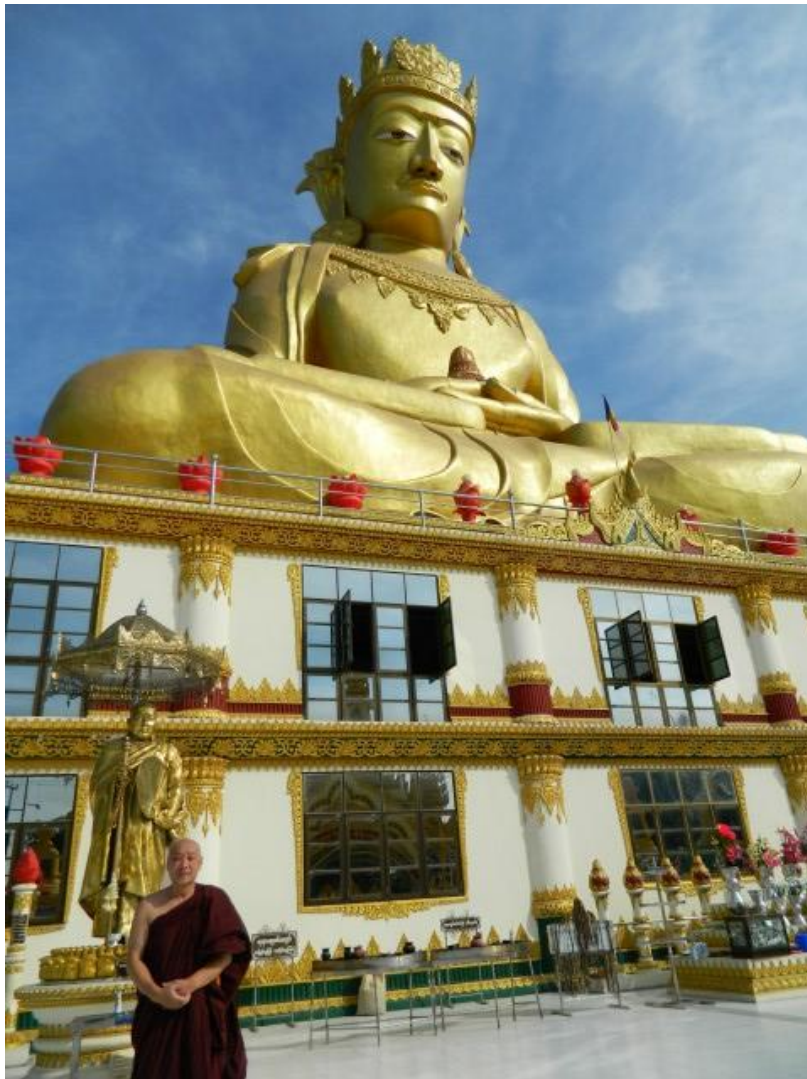
今回、最初からパオの方からカピアが二人来て、連れていかれたわけですよ。まずヤンゴン市内にあるパオ分院、ここでは常時 300 人から 400 人、瞑想をしています、第二分院もあるのですけれども。そこからまっしぐらにインレーレイクという大体 40 キロ、幅 20 キロ、山に囲まれて 2000 メーターくらいのところにパオの分院があるわけですよ、分寺。そこに案内されて行きました。そうしたら、何と私が瞑想をして観た浄土の情景なのですよ！湖の真ん中にお寺があるわけです。1000 年以上前に建ったお寺がそこにあるわけですね。その地方の人は、もうしょっちゅうそこのお参りに行くわけです。そこのお寺の周りに蓮の華もいっぱい咲いているわけ。

まあ、その浄土に往けば、まず鳥が迎えてくれるのですね。孔雀とか必ず、そういう状況がある。そのときに、このお寺に入る前に、湖の真ん中に白い大きな柱が立って、その上に金の鳥が座っているわけ。台湾のすごいお坊さんが、この 1000 年前のカクサンダ仏陀に非常に帰依して、毎年たくさんの寄進をして、お金を持ってくるわけです。ここは、ミャンマーのそこら辺の人はしょっちゅうそこにお参りに行くわけ。それで、ここは白人の方も来るわけです。ただ、超大金持ち、飛行機で来て、船で湖のあるホテルに泊まるというくらいだから、すごいお金ですよ。だから、日本の方も連れていきたいのですけれども、まず難しいでしょうね、時間と金の面で。飛行機で行くか、外国の人は超高級に泊まるか。船でしか行けないで、周りも、そのエリアに入る前に、外国人は 10 ドル取られるわけ。衣を着てスッと行ったから、何も払わないで、スッと入って行って。そういう不可思議なところがありますね。

カシミールというところに湖がありますけれども、その 4 分の 1 くらいの大きさで、そこは今でも半分はヘブライ語、ユダヤ語を使うのですね。そこにはアブラハム・ヒルとかソロモンズ・テンプルとかあるわけです。このイスラエルの数学の教授が言っていました、「私たちは北インドから来たのです」と。そのことなのです。というふうに、それよりも素晴らしい究極のシャングリラみたいところがインレーレイクというところにあったわけです。というふうなすごい旅が始まって、何と行ったカクサンダ仏陀のところからもらった数珠がこれなのです。この数珠で、これが、私が 18 代前にカクサンダ仏陀を私が白い牛になって、牛車にお乗せしていったわけ。だから、その前で頭下げたときに、その当時の自分の本当の姿を觀せてくれました。大きな牛でした。

なぜ、私がそこで牛さんになったかと言えば、その 2 代前に私は比丘だったのです。一生、法を求めて法を求めて法に出会えず、木の下で死んでいったわけです。その高德のおかげで牛さんに生まれて「カクサンダ仏陀お乗せした車をを引っ張っていく」という、すごい高德を受けました。この因縁として、もうパオの方から用意されて、直接そこに行っているわけです。びっくりしましたねえ！行くお寺、行くお寺が、全て「カクサンダ仏陀」で始まっているわけです。西、西、西。日本では「阿弥陀様」といいますね、又は「アロートピュエ仏

陀」と、「願いのかなう仏陀」¹。最後の最後までもうカクサンダ仏陀で、最後、離れるときに「どうしてもアジタン仏陀のところに連れていく」と言う。ヤンゴンに行けば、巨大な仏像が見えるのですよ。天を突くように、ダーッと青い空。それが、このアジタン仏陀という。すばらしいセヤドーが20年瞑想していて、大地にアジタン仏陀が待っているところの映像を観たわけです。そして、その仏像の黄金の上に、パタパタパタッとたくさんの宝石が付いているのですね。

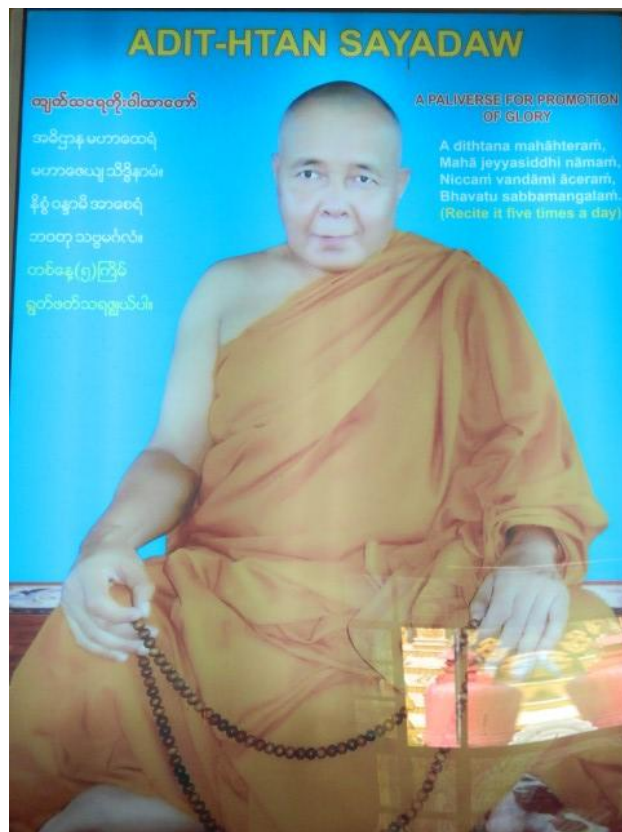


アジタン仏陀と水源禅師

¹ 親鸞聖人も『教行証文類』「行巻」に「名を称するに、よく衆生の一切の無明を破し、よく衆生の一切の志願を満てたまふ」と、ただ阿弥陀仏の名号を称えるところに、衆生のすべての無明を破り、衆生のすべての願いを満たしてくださる、と述べられている。



アジタン長老が瞑想して
地下に埋まっていることを発見した仏



アジタン長老

仏像の偉大な力—物ではなく、聖なるもの—

というふうに、一般の人は西洋の影響を受けて、何か「仏像を拝むのは邪教だ何とか」と言っているけれども、これは真っ赤なウソ。イスラームでは一切の仏像を破壊して「これは邪教だ」と言うけれども、実はこのアラーの神は3人の娘さんがいたのですね。こういうことも一切、説明しないし、ただ、このアラーの大神様はこう言ったわけ、「他の像があれば、私の力が発揮できないから、全て破壊せよ」と。神ほどの力があれば、そういうことを言うこともないし、全て創ったものは神の創造であるから、悪いものは一つもないわけ。ここで、大矛盾を起こしているわけですね。

だから、2000年前に造られたバーミヤーンの仏像を壊したでしょう？ その後、どうになりました？ これは大変なことになって、いまだにもう殺戮でしょう？ ご先祖様が命を懸けて造った世界最大の仏像を壊してしまった。これだけ人間は劣化してしまうわけです、法がないということが。

だから「法を持つ」ということは大変なこと、せめて、その法を仏像に心を映していくと。この日本に生まれているあなたたちは、すごい高徳を受けているわけですよ。特に「仏縁を求める」ということは大変なことなのですね。それで、ちょっとここにすばらしい仏像の先生がおられますので、仏像のことについて、ちょっと説明していただければ、有り難いですね、A先生という方で。

【A先生】

仏像は専門なのですがけれども、内容の方はあまり勉強していないもので、先生のお話を伺った方が。

【水源師】

こういうすばらしい方が来ていただいて、今はすごい栄光を受けています。お釈迦様が最初に説法をしたサールナート（鹿野苑）ということと非常に仏像の縁が強いのです。そのサールナートは鹿野苑ですね、お釈迦様が最初に説法したと。その住職様が私を連れていってくれるわけ。「ここが説法をしたのだ」という、その真ん前。その横で孔雀（クジャク）が踊るわけです。孔雀が本当に踊るのを「見てくれ、見てくれ」と、私に。「何ですか？」って、不思議な孔雀踊りを見ました。

そのテラワダ（南伝）のマハーボディ・ソサエティという、いつも南伝のセヤドーに、非常に何かいつも大切にされて。その方が私に「仏像をカナダに持って行ってください」と言うわけです。何と見たら、私の目にはタッタッタッタッタと話しかけるのですよ。映画と一緒に。まさに映画と一緒に。不思議な仏像は「お釈迦様の真身舎利の本当の舎利で、49日間、朝に夕にプージャをやって祈った仏像ですから、ただの仏像ではないのです」と。まさにただの仏像ではない！ ワーッと話して、姿バタバタバタッと変えていくから。「摩訶不思議な！」ということで「仏像というのはすごい力を持っているんだな」ということが分

かって、それにプラス、ナーガールジュナ（龍樹菩薩）様の1000年前にできた、鑄像されたもので「現代は見られません」という青銅盤を一緒に付けてくれたわけです。ただし、「これは1000年前だから、黙ってインドから持って行ってください」と（笑）。

帰っていったら、南米の超能力者が「あなたはインドから二つ大切なものを持ってきているでしょう。この二つ大切なものは中国のお寺に納めなければいけません」と。「中国のお寺？」、「はい」。言えないから、石を持ってきて、その上にダーッと書くまねをするわけですよ。「あ一分かった」。中国には1000年かけて石に掘った経典があるのですよ。1950年代に、あるお寺で毛沢東時代に掘り当てたもので、インドのガンジー首相が「私たちの国には、これをサンスクリット語で書いた経典があります」と。「中国の石に刻まれたそれを石の重さの金の重さで支払いますから、インドに持って行きたいのですけれども、許可ください」と言うけれど、毛沢東が「ダメです」と。雲ですね、空の雲が居るお寺、雲居寺という国宝のお寺です、ということがすぐ分かったのです。

それで「いつ持っていけばよいのか？」と。二つ月を書くわけですよ。それで矢印。そういう回答しか天界ではくれないのですよ。口では言わない。それで、南米に行ったら、お医者さんの超能力者が「あなたは、この月に行かなければいけない」と。時間帯があるわけですよ。何とその7年に1回のダブルムーンというのですね（ブルームーンともいいます）、ダブルムーンのときだったわけ。その時間帯しか天界の扉が開かないわけ。ただ、そういう不可思議なものは、そう簡単に国と国を移せないのですよ。大変なことになるか、また失うか。だから、そういう時間帯だけが天界が守ってくれるわけ。

そういうふうに、ただ「仏像、仏像」と言うけれど、物ではないのですよ、この宇宙的なエネルギーが入っているから、すごい力を出すわけです。だから、本当のお坊さんは「仏像を彫るということは、すごく高德になる」と。だから、こういうこともはっきり知らないけれど、こうして18代の前世の因縁が、ずうっとたどれば、クモの糸のような切れそうな状態でも、こうしてつながってしまうわけですね。だから、善い高德につながれば、切れないわけです。ところが、逆に悪い方に行くのは、いくらでもできるから、大変なことになると。だから「善いことをしなさい」と言うわけです。ましてや「仏に出会う」ということは大変素晴らしいことだから、それで「アジタン仏陀」という。これは「弥勒様」のことです。そのとき、アジタ（Ajita、阿逸多）という比丘で、この人だけが「来世、弥勒仏になる」という授記を受けたと、南伝で言われています。

だから、このインレーレイクの水上のお寺には有名な「五つの仏」が飾ってあるわけです。それはみんな金を貼るから、もうこういう金の塊になってしまっている。もう仏像の姿は見えない。200年前はちょっと見えるくらいで、今は完全に金の塊の中に入ってしまった。薄い金箔ですよ、ペタペタペタペタって、もう塊で重くなって。この「五つの仏」は、天界の梵天様が降りてきて、置いていったそうです。1965年に、そのとき1年に1回、涅槃の船ですね、それに乗せて湖を回るわけなのです。そのときに船がボーンと沈没したわけですよ。たった一つは見つかった。あと全部、失ったわけです。それで一つ置いたら、何と不思議なことに四つ現れて、そこに出てきた。だから、それ以後は絶対に五つは持っていかない。一つだけ必ず置くという。



ミャンマーの仏歯寺の前にて

パティヴェーダ（瞑想）によって証を立て法を得る

まあ、今、私たちはサイエンス・フィクションで「サイエンス、サイエンス」と言うのだけれども、全くこれは根底がないわけなのですよ。というのは、私の生徒にロシアで最高のロシア科学の大学実験所で宇宙のこと全部、調べているわけ。「実は、私たちは一番簡単なこの電流が、どうして流れるか誰も知らないのです」と。でも、一般の方は研究実験しなくても、明快に分かっている（と思っている）わけです。というふうに、実は何も分かっているわけなのですよ。大手新聞だけを読めば、「すべて世の中のことが明快に理解できた」と思うだけです。現実は大いに違い、本当のことを知らされないように社会はできています。

だから、結局、「頭で考えるのはやめなさい」と。最初、分からないときはよいですけども、パリヤッティ (pariyatti)¹ という経典を読んだり、聞いたり、それはすばらしいこと。

¹ pariyatti (信、解—信じて話を理解する)：説法を聞くこと。

patipatti (修—文献を研究する)：お経を読んで考えること。

pativedha (證—瞑想で悟る)：瞑想で体得すること。

次は、もう少し勉強して、パティパッティ (patipatti : 経典を深く洞察する) にいくのだけれども。やはり最後のパティヴェーダ (pativedha : 瞑想) によって証を立てて、法を得ることによって、「これが何であるか」ということによって、初めて本が読めるのであって「その前はあまり真剣に考えなさんな」ということなのですね。

それで、ミャンマーでは「二十四縁起」(二十四因縁) ということを一般の在家に『般若心経』みたいにチャンティングさせるわけなのです。それがこの日本語はないのです。これはパーリ・イングリッシュ。「二十四因縁」のことを「パターンナ」と書いてあるわけ。それで、一般の在家の人には、こういうふうな解説書があるわけなのです、ま、大体。こういう人たちがダンマトーク (法話) といって説明するわけなのです。「一体、何を書いているか」と言ったら、実に簡単な「色受想識」。「五蘊」のことを得々と説明しているわけ。これを「パターンナ」といって一番省略したものなのですね。

これがグレートブックパターンナ (マハーパターンナスッタ) となれば、これだけ大きいのですよ。グレートブックパターンナになれば、24 時間、朝から晩まで、お坊さんが 10 日間、読経するわけですね。では、その内容は何をやるかと言ったら、結局、パオ僧院でやる「ナーマ・ルーパ」(心と体)、「名色」を観ること。だから、パオでは「名色」を観た場合には一切、必要ないわけ。説明も要らないわけ。一般の人は到底そういうことができないから、しょっちゅうこういうことを聞かされるわけなのですね、こういうふうな図を書いて。日本ではこの「二十四因縁」ということを誰も説明しないし、何であるかということも、日本語で明快に説明した人は、いまだにいないわけなのですね。

水源禅師の総決算であった 2014 年の旅

そういうことで、ミャンマーの方では、実は「瞑想できる」という人があまりいないのですよ。今回、パオで最高位、パオ・セヤドーが最高の称号を付けた人、ディーパンカラ・サヤレーよりも数段上の方。第一人者といわれる方に法を伝えることができ、ヴェーダナーヌパッサナーという受随観、びっくりしていましたね。やはり私もびっくりしたのは、私が 7 日間かかったところ、この人は 4 日で通過してしまっただけから、最後までバーッと。びっくりしました、やあすごいものだ。やはり一つの法をやれば、他の法がすぐ分かるわけなのです。ということが、ほとんどの教えでも抜けていますね。

だから、禅法が分かれば、受随観も分からなければいけないし、また禅の空を知れば、当然、パオのダンマヌパッサナー、法随観もできるはず。というふうに、お釈迦様が一番、強調したのは「ただこの方法しか涅槃に達しません」という「四念処」ですね。今は空文化になって、スリランカでも、これをやる行者は一人もいないと。2000 年の伝統を誇るトンドサという通度寺、韓国の最高のお寺。文はあるのだけれども、一体どうしてやるかはもう分からないようでした。

一番大切なのは、やはりニミッタ（禅相、丹光）で観るしかないわけなのです。これを 1000 年前の宋大蔵経の中の『宗鏡録』第 82 巻の中に書いてあるわけなのです¹。ある人が「ニミッタということは大乘にはない」と、「いや、ありますよ、ちゃんと」と、こういうふうに書いてあるわけなのです。どういうふうに書いてあるかと言えば、「一心をもって名を照らし観よ」と言っている。何で照らすのか、ニミッタのこと。「名」とは何か、「受想行識」、心の動き。というふうにもう、昔あったけれど、それをできる行者がないから、今度、南伝の方の行法が来て、さもこれが新しいように見えるけれども、もうあったわけです。南伝でも、これを通過するという事はまずないわけなのです。非常に難しい行です。私も「まずこれ、本当かな」というくらいで「これは教えられない」と思ったのです。

それで、奇跡的に受随観をスリランカで受けて、これをミャンマーで今回やったら、びっくりしていましたね。3600 人いるナチュラル・モナストリー（自然僧院）という、そのセヤドーから「200 人の比丘に教えてくれ」と言われたけれど、200 人いても、一人も通過しなければ、私の時間も無駄だし、意味がないでしょう？ それで、このパオの最高位の人を選んで、その生徒と大学の教授と併せてやったけど、ほとんどパラパラパラッと落ちて、この人しか残らなかった。見事に受け取ってくれたのです。



ナチュラル・モナストリー（自然僧院）の長老と水源禅師

¹ 永明延寿禅師（904-975）の『宗鏡録』第 82 巻に「一心而（中略）照名観」（一心をもって名を照らし観る）と書かれている（『京都新聞』「名品手帳」2014 年 10 月 5 日付、朝刊、第 17 版、第 1 面）。



1600 件の住宅のためにある自然僧院

ま、韓国の方でも、釜山に2万坪の太宗寺があって、その和尚さんは93歳の南伝。南伝世界では超有名な方です。一緒に住んでいる人が90歳のマハーヤーナ（北伝、大乘）の禅師です。いつでも一緒に行動して、私が行ったときには夜12時くらいに寝て、次の日、5時に出て行って、また他の町に行って、法を伝えに行くわけなのですね。93歳ですよ。腰も曲がっていない、ボン、ボン、ボンと歩いている。これこそ本当の聖者、本当の聖者。93歳のマハーテーラ（大長老）がパッパッパッと行くのだけれど、私の弟子のナレンダ・セヤドーは付いていけないわけですよ。ちょっと遅いわね。そういうくらいで、やはり普通の人と違いますね。90歳と一緒に歩くマハーヤーナの衣を着た方も、やはりこれも聖者で、ピンと立って歩いていくからね。

ということは、やはり心のサンカーラ（行、形成作用）をしっかりとった場合には、病気が全部、消えてしまいます。歩けます。というふうに、また寿命も延びます。というふうに、ミャンマーでは、その奥地に行って、その後、バガン、またもう一回バガンという世界遺産のところに行ったけれども、「1000年前によくこれほどのお寺を造った」という、すごいところでしたよ。ま、そこはもう世界中の人が来るのですね。シャン・ステイト（シャン州）のインレーレイクの旅は非常に難しい。非常にお金も取られるだろうし、一般の人は飛行機で行くしかないから。あとは西洋の若者が来ているけれども、どうしてそこまで来ているか分からないけれども、どういう方法で旅しているのか、非常に難しいところです。

今回の旅は「私の総決算」というか、このカクサンダ仏陀の出遇い、18代かけてやっと明快に分かったわけです。「なぜ、私はミャンマーに行って修行しなければいけないか」「なぜ、私がこういうふうな仏縁を持っているか」ということが、今年、明快に分かったわけです。「なぜ私がミャンマーなのか」ということは、結局、受随観がもう消え去る、その直前に、法を消さないで受け取っている方が出ているわけなのですね。このパオ・セヤドーから称号を受けた、ただ一人。この人が明快に言いました、「(水源)先生の教えは非常に明快でクリアです。こんな教えがあるのか？」と。実はミャンマーにあったのが、もう忘れ去られているわけ。その方法で、京都で少しだけ最初、治りましたか。

【参加者】

はい。

【水源師】

そうでしょう。というふうに、実体として病気をすぐ治していく。瞑想というのは「あ、悟った」、そうではない。体も治らなければいけないし、それから、健康体にならなければいけないし、そのうつ病とかは消えてしまわなければいけないし。お釈迦様は「本当のお医者さんの大王」(大医王)なのです。ということを皆さん、「何で大王なのかな」と、こう理屈で言うのだけれども、こういうふうに、仏法にはすごい力があるわけなのです。だから、仏法のない世界、悲惨でしょう？ アフガニスタン、いまだに戦争でしょう。それで民主主義をやるとか、不可能ですよ。イラクはいまだに戦争でしょう？ シリア、リビア、アフリカもほとんどイスラーム国だけですね。もう殺戮に次ぐ殺戮でしょう？

だから、私が南米に行って、衣を着けて歩いたら、エクアドルの首都キトで、皆こうしてのぞいていましたね、電車からダーッと、映画から出てきたみたいに。なぜ、私が衣を着けたかと言えば、テーラワーダでは「この衣を着けて、その国に行けば、その国が祝福される」というわけです。私とその衣を着けて、中近東に行ったら、首飛ぶでしょうね、パーンと。実際に1000年前に、アフガニスタンのガンダーラ大学では、3万人のお坊さんが一夜にして首飛んだ。インドでは30万人のお坊さんが一夜にして殺されて、それから、全部隠れて、髪伸ばして、ヨギという姿で400年こもったわけです。

だから、仏法では九山という九の教えがあるわけです。インドでも全く一緒に法を持って、最高がサンカーラの教え、サンカーラ・チャリアという、ヒンズーでは。結局、仏法で教えられないから、髪を伸ばして、衣を白いようにして教えたわけ。だから、ヒンズーの究極も、実はお釈迦様の教えと同じようなことを言われています。

ただ、真髓は菩提達磨様が中国に持ってきた心の心随観、チッタヌパッサナー。これが非常に大切に「全ては心から発する」という。パオ第一人の行者に「空は一つではないですよ」と、「人空、法空、空空があります」と言うと、びっくりして、これは教えない。菩提達磨の究極な教えで、禅の究極の教えで、これは秘伝ですね。そこに達した人だけが紹介されます。「こうしてください、こうしてください」と。だから、今、日本最大の問題は、すばらしい仏国であるのに「法を明快に伝える人が、今世紀いまだに出ていない」という。

マハーカルナー比丘は存在しない

私はパオ僧院モーラミヤイン本部に行って、事務局長に「【水源師】いやー日本ではすごい行者を出したではないですか?」、「【事務局長】誰ですか?」、「【水源師】マハーカルナーという、素晴らしい行者が出て、日本をこれから改革するのではないですか?」、「【事務局長】誰ですか? そんな人いませんよ」、「【水源師】16年ワサでいるのではないですか?」、「【事務局長】在家のカルナーチャラさんのことではないの?」、「【水源師】誰ですか?」って。

「マハーカルナー比丘は存在しません」と言っていました。カルナーチャラという在家の行者は16年前、スリランカで比丘の戒を受けて、2日後に姿を消したらしい。そのカルナーチャラさんという人が「私はスリランカの比丘です」ということで、事務局長がスリランカのお寺に電話を掛けたのですね。スリランカでは「この人は16年前に比丘の戒を受けて消しましたから、もう比丘の戒はありません」と言っていました。カルナーチャラは、この名簿に在家で載っているように、今でもマハーカルナーはいません。カルナーチャラです。という在家の修行者です。

それで、この事務局長はウ・クムダとって、よく誤解されるらしい、モービーのウ・クムダ・セヤドーと。モービーのウ・クムダは36年ワサ、彼（事務局長）は10何年ワサ。パオの外国僧を取り扱う総事務局長なのですね。この方がカルナーチャラさんに「【事務局長】あなたはなぜ南伝の衣を着ているのですか?」って聞いたわけ。「【カルナーチャラ氏】実は、私は16年前に比丘の戒を受けました」、「【事務局長】でも、あなた2日後に出たでしょう?」、「【カルナーチャラ氏】はい、そうです」と。「【事務局長】あなたの比丘の戒はもう消されていますよ」と。次の日に（カルナーチャラ〈マハーカルナー〉さんは）大乘の衣を着たわけなのですね。「【事務局長】あなたはなぜ大乘の衣を着ているのですか?」と、「【事務局長】そうしたら、その大乘の衣の証明できる書類ありますか?」と、ないのですね。

それで、いまだにパオではカルナーチャラで、マハーカルナーさんは、ミャンマーの方は誰も知らないわけです。「【水源師】そんなことはないでしょう?」と。「【事務局長】ただ、ここに日本から来ているサーサナワンサという人がいるから、カルナーチャラさんといつも一緒にいてましたから、そこに行って聞いてみなさい」と。そして、私がそこに行って「【水源師】君は、このカルナーチャラさんを知っているのですか?」、「【サーサナワンサ氏】知っています」、「【水源師】マハーカルナーさん知っていますか?」、「【サーサナワンサ氏】ああ、知っていますよ。」と、この人だけしか知らないわけ。「【水源師】この人はメイミョーに選ばれて行ったのですか?」、「【サーサナワンサ氏】そうです。ワサ16年でカシナ（十遍）も分かるし、全部、分かる」って。

それで、ウ・レワタ長老 (Revata Sayadaw) の指導を受けた、私の同僚のウ・コウィダ (Kovida Sayadaw) さん、一緒に勉強をした私の同僚なのですよ。「【水源師】君はカルナーチャラさんに一体、何を教えたの?」と言ったら、「【コウィダ長老】何も教えていない」と言うわけ。「【コウィダ長老】2カ月教えたけど、ニミッタとか、そういう禅法は一つも教えていない」と。はっきり! 「【コウィダ長老】あと2カ月後は、ウ・レワタ長老のところに引き渡した」

と。「【水源師】なんで君は全然、教えていない人を『選ばれた』と言って、送ったの？」と、どっち（レワタ長老、コウイダ長老）も「いや、私は送っていない」と。「私は推薦もしていない」。

4 カ月間、登録されているのですね、カルナーチャラという名前で、マハーカルナーではないのです。サーサナワンサ、日本名、堀ゆきお君、慶応大博士号の勉強をして落ちたということで、何かそのとき、バンコクで6年前に出会って、そのとき命を落とすようなことを言うから、1万円を渡して「日本に帰りなさい」と。そのままバックパッカーで、このパオにいたわけなのですね。そういうことで、日本の方では「アーチャリヤ・マハーカルナー」という称号を与えているけれども、パオの方では「全く知らない」と、「誰が称号を与えたかも、いつマハーカルナーになったかは分かりません。比丘は与えられません」と、「この人は一回こういうふうな非常に大きな掟を破ったから、パオでは受けさせません」と。

ただ、パオで4カ月、メイミョーで4カ月、この在家は「二十四因縁をパオ・セヤドーから教えてもらった」ということだけれども、それもないわけなのですね。100人の比丘と100人のサヤレーに教えるからね。私も見たけど、一人一人に集団的に「はい、これやったか?」、「はい、これやったか?」、それくらいで説明できることでもないし、簡単な二十四因縁、ナーマ・ルーパの講義はありませんでした。

ウ・コウイダ君に「【水源師】君は一体『普通の瞑想』って何の教科を教えたの?」と。「【コウイダ長老】いや、いっぱい人に教えたから分からない」と言うわけ。「【コウイダ長老】覚えていない」と言う。ま、そのとき私が2012年12月に行って、そのときにウ・レワタ長老に言われたけど、「【レワタ長老】パオに一人の在家の行者（マハーカルナー）と一人のサマナーラ（沙弥、サーサナワンサ）と比丘（シーラウオンタ）がいる」と。「【レワタ長老】私は、この方に普通の瞑想法しか教えていない」と言うわけ。

ということが「実情」です。ということは、結局、日本では瞑想者がいないから、おかしいということも分からないし、ミャンマーのそこではインターネットも使えないし、電話も使えないし、スタンレーというヤンゴンにある、常時300人、400人の修行者は、まず入ったら、電話を取られるのですよ。一切テレビも何もない。だから、通信方法がないから、「一体、何がミャンマーで起こっているのか」ほとんど分からないし、通訳する人だって、修行者の瞑想を通過した人でなかったら、分かるわけないわけなのが現状で、世界的に嘘八百の時代ですね。

嘘八百の世界政治

嘘八拍の世界政治は日本の大問題であって、これは私が今、行をやったから分かるけれども、実は経済界、政治、哲学、科学。「東工大の偉い教授が、お金を何かポケットに入れた」といって訴えられているでしょう？ モラルがもう落ちてしまっている。結局、恐ろしさを知らないわけ。次の世に何が発生していくか？ こうして間違っただけで教えられた人は、一緒にそこに行ってしまう。そこに一緒に行ってしまう！ 信じ込むから。だから、お釈迦様は「私の言ったことを本当かどうか、あなた方、一人一人、確かめなさい」と。それしかない

わけです。

それで、私が「サティパッターナ」を習得したと、「四念処」ですね。それで、確かめなければいけない。やっぱり韓国で4人のすごい行者が受け取りましたね。ミャンマーで一人。「なぜ分かるか」って、「何が発生したか」を聞いたら、状況が分かる。「あー、ここに行った」と。それで確信を得るわけです。だから、あなたも相当よくなりましたね？ ということで「頭ではない」のです、実体として起こることが仏法なのです。だから、ただ仏像を彫って「仏像ではない」、もう心が入っているから、天界の力が入ってしまうからね。それは「聖なるもの」になってしまうのですね、「物ではない」のです。

それを西洋の方は何か「そういうものを拝むのは邪教だ」と。そう言っている、特にイスラームの方の大神様と言われる方が「そういうものがあれば、私の力が発揮できないから、破壊してくれ」と言う(笑)。神の力でパ、パ、パッと破壊してしまえば、よいでしょう？ 大矛盾しているわけ。大変な矛盾をして。だから、人間は分からないからね。何でも信じ込んでしまう。だから、私は「全て空っぽにして、おいしいものを食べたらおいしい」と、これは本当。苦いものを食べたら、これは苦い。手足が痛かったら、もむ、治す、これが本当。そういうことから、かけ離れて「これを拝めば、よいことが！」、そうではないのです。「問題がどこか？ 一つ一つ解決していく」と。解決できない場合は天界が来て教えてくれます。

私も去年と今年、もう朝から晩まで働いてね。土建業をやって、道路をつくって、瞑想センターを造るために莫大な金がかかるから、私の体はいくら働いてもタダだからね。屋根を葺(ふ)いたり、そうして、分からないことが出てくるわけ。「どうなのかな？」と。パッと映像で観せてくれる。「なるほど、こう組めば、できる」と。ということで「そういうものは存在しない」とか、そういうふうな知恵しかないわけなのですね。この宇宙はもう精霊たちが満ち満ちて、善いことをする人はもう一生懸命、応援してくれます。そして、本当に精進したい道を歩めば、必ずご褒美が出てきます。ということをお私今、伝えているわけですね。





水源禅師の工事中の瞑想センター（ビルカバンバ）

正しくないことに手を付けてはいけない

今回、カクサンダ仏陀の出遇いと、ずうっと出遇いを見て行って、そして、この証明として、これを頂いてきたのだけれども。パッとそこにあって、なぜか「持っていきなさい」と言われて。見たらやっぱり、「正しくないことに絶対、手を付けてはいけません」ということ。いくらこれがよいように見えても、なぜかといったら、その昔、「共産主義はすばらしいことだ」ってバーツとみんな走ったけれども、何と監獄に入れられて、国から出られないような悲惨な状態になったでしょう？ それで共産主義が崩壊した。今度は「商業主義はすばらしいことだ」となって、アメリカが今、崩壊寸前でしょう？ では「何が一番、正しいのか？」と言ったら、「自分の心」で「これはおいしい、これは苦い」というふうに、素直に生きていけばよいわけなのですね、素直に。

というのは、次の来世があります。人間界に生まれるのは難しい、難しいです。究極を教えたユダヤ教の經典に書いてあるのですよ。アダムがパラダイス（楽園）からエデンの東から送られるときに、神がアダムにこう言ったわけなのです。「人間は悪しきこと・善きことを知る生きものなり。アダム、お前に永遠の命を与える」と。これを結局、「輪廻転生」のこと。「悪しきこと・善きこと」ということはナーマ・ルーパ（名色：心と体）の一番難しいクサラ・アクサラ、善心・不善心の教科のこと。書いてあるわけなのですよ！ だから、聖書を読んでいるお坊さんは、アビダンマのナーマ・ルーパの善心・不善心なんて分からないから、読めるわけないわけなのです。

ただし、ドイツの人は約 200 年前にパリ語を全部ドイツ語に訳しているわけなのですね。だから、パオでもドイツの人が一生懸命、勉強しているわけ。ただ、問題は、この日本の方のように「昔の偉いお坊さんが心を伝えてくれる」という仏法がなかったものだから、頭でやろうとしているわけ。それで通過できないわけ。特にドイツの場合は、サイエンス（科学）とか医学とか、今でも最高でしょう？ 数学でも。それが大問題なわけ。仏法は、それを超えたものであるからね。幼稚園の知能で博士号を理解できないわけなのです。仏法はそれくらいすごいものである、時空を超えてしまうから。

だから、こういうすばらしいものを「本で理解しよう」という、とんでもないことをやるわけ。ある方が京都に「先生、この本（『暗号は解読された 般若心経 改訂版』）を見てください。元北海道大学応用電気研究所の人で『般若心経』を解読しました」と。「【水源師】あなた、この『受想行識』という説明が一つもないじゃない？ これ、どういうこと？」。これでもう「これ嘘ですよ」と、バーンとそれでもうおしまい（『水源禅師法話集』第 37 巻参照）。

また、別の方が「バシヤールはパラレルワールド、パラレルリアリティ」（『アセンションの鍵 スーパーラブ』18 頁）という何か書いているのだけれども、その本を持ってくるわけ。「この人は『欲界、色界、無色界』を、これに当てはめて、これを混同しているよ」って。「バイブレーションを高くしたら、頭が焼け切れるよ。低くしなければいけないのに」と。

《密度と振動数》		
密度	振動数 (回/秒)	備考
第3密度	約 60,000～ 約 150,000	地球は今までこの段階。人類の平均は約 76,000～80,000 回/秒。 初期のアトランティスは平均約 140,000～150,000 回/秒。
移行領域	約 150,000～ 約 180,000	上は約 180,000 回/秒。今、人類は第3密度から第4密度への移行期。 ムー/レムリアは平均 170,000～150,000 回/秒。
第4密度	約 180,000～ 約 250,000	ピラミッド内の儀式で到達したのは約 200,000 回/秒。仏陀やイエス、クリシュナ、ヴォーヴォーカは 200,000/秒以上。ここまでは物質界
移行領域	約 250,000～ 約 333,000	バシヤールたちの惑星・エササニでは約 250,000～290,000 回/秒。 セッションのときのバシヤールの宇宙船は約 250,000 回/秒。 エササニは今、物質次元から非物質次元への移行期。
第5密度	約 333,000～ 約 500,000	ここから非物質界。
第6密度	約 500,000～ 約 666,000	
第7密度	約 666,000～ 約 825,000	
第8密度	約 825,000～ 約 1,000,000	
第9密度	約 1,000,000～	

(『アセンションの鍵 スーパーラブ』25頁)

というふうなことを何でも信じてしまうわけ！ 偉い先生か何かということで、検証なしに「全て真実である」「大手の新聞情報も全て真実である」となれば、民主主義国家は存在できません。だから、お釈迦様は言ったわけです。「自分で確かめなさい」と。お釈迦様は「あめ玉をもらって、宝くじが当たるようなことはありません」と言っているわけ。「それをもっても、偽物だから、すぐに投げてしまいますよ」ということ、偽物だから。虎の巻を見て回答しても、意味ないわけよ。百点満点もらっても、無駄なことですよ。50点取っても、自分で回答した場合は、その人のもの。

だから、今回、A 先生がカナダに来て、今度ご指導して下さるといふから、仏像を彫るのが非常に楽しみでございます。というふうには、先生の手引きがなければ、私がやったら、変なものになりますよ。まず、そこから始めて、ということで「仏法というのも上下もなし」、「一步一步、階段を外せば、滑り落ちます」ということで、非常に数学と似ています。数学も虎の巻で回答を出しても、次に進めないのですよ。何をやっているか、分からなくなってしまう。ところが、カナダの大学のテストは題目をパッと黒板に与えて、自分で白い答案用紙を持って出すだけ。「全部、解析して出してくれ」と。これが本当にイギリス方式、ドイツ方式。「〇×ではなく、全部、自分で書きなさい」と。だから、タッタッタッタと書き続けなければいけないわけ。それで、教授が全て分かる。どこまで理解したかが分かるわけです。

だから、西洋は西洋でよいところがあるのだけれども、「アインシュタインの理論がどうも間違っている」ということが今回、発見されて、前も言ったように。それで、これに頼っていた西洋哲学が今、総崩れになり始めたわけです。ただ残っているのは、この仏法だけなわけ。だから、「西洋の学者たちは『朝から晩まで仏教の経典を読んでいる』と言っている」と言っていました。ここの中から回答を引き出そうとしている。でも、これはパティヴェーダ (pativedha : 瞑想) でしか通過できない。経典をいかに深く考えても、これは通過できないようになっていきます。経典自体が存在しないわけです。アビダンマでもボチボチボチ抜けているわけ。ボチボチ抜けている。

なぜかといったら、「ブッダゴーサは阿羅漢ではない」と、なぜなら「阿羅漢は字を書かない」って。だから、経典を集めて書いたアビダンマを「阿羅漢が書いた」と思っているのだけれども、「実体は違う」ということ。確かに内容を見たら、絶対、通過できないようになっています。パオの教科書も落とし穴いっぱい作っている。そのまま回答したら放っておく。韓国である在家の人が「全部、通過した」と言うから、よくよく話を聞いてみたら、ナーマ・ルーパのところ間違った回答をしているわけ。私もその人には説明しない。私の弟子のナレンダ・セヤドーには「実はこうなのですよ」と。「絶対これは秘密だから、言ってはダメだよ」と。言ったら、すぐにまねをするから。

というふうには、書かれていないのですよ。一番大事なところは全て抜かしてある。だから、その抜かしたものを朝から晩まで 100 年読んだって無駄、無駄。英語を朝から晩まで、ここで勉強しても、現地に行って通用しなければ、何のための英語なのですか？ 現地に行って、その英語の意味が明快に分かるわけですが、どういうふうな使い方か。というふうな環境がなければ、いくらか想像して、こう言うときは「I am a boy」「You are a girl」と言ったら無理。一体、哲学の英文で何を意味しているかも分からないはず。ここにはないのだから。英文も、その国にはあるから「これはこうだ」と分かるけれども、ないものをどうして分かりますか？

聖書の中で「神が息子をブドウ畑のそういう国に送って、助けようとした」と。「一番目の息子が殺された」と。「二番目の息子も、そのブドウ畑の田園に連れていった」と。「ブドウ畑のそのワイン」の意味が分からないでしょう？ 最も崇高な神の飲み物なわけ。それは西洋に住んで、その中で暮らして初めて分かる「ブドウ (葡萄)」のことなわけ。ブドウ酒。この真髓を 1 万年の歴史を持っているというシシリアのイタリアの友人から秘伝を教えてもらっ

たわけ。それまでいくら本を読んで作っても、酸っぱいブドウ酒ができて失敗ばかり。それでそのとおりやったら、簡単にできちゃうわけなのです。その秘伝は何かと言ったら、実に簡単なこと。お月様を見たら、できるわけ。本を見たら、できないわけ。お月さんを見たら、ちゃんとできるわけ。仏法もそれと一緒にです。



アロートピュエ長老が 20 年間、瞑想して
出現されたアロートピュエ仏陀

質疑応答

ブレインウォッシュ（洗脳）—インターネット、携帯電話、テレビ、原発—

【水源師】

何でも結構です。政治、経済、ありとあらゆることを何でも質問してください。私は西洋に住んでいますので、ほとんど日本には情報が入っていませんね、NHKを見ても。見たら、あるところでは全部、発表しているのですけれども、英文でしょう、難しい学術用語を使っているから、何を意味しているのか、ほとんどの人は分からないと思います。それで、仏法に関心がなくても、そういうお釈迦様に関心がなくても、生活状態、経済状態、何でもよいです。聞いてください。私の知っている範囲で回答いたしますから。

【参加者】

今日、高速バスに1時間半、乗って、電車を乗り継いで会場に来たのですけれども、私もスマートフォンを持っているのですけれども、隣に座っている方は乗ってから降りるまで、ずうっとスマートフォンをいじっていたのですけれども、最近、電車に乗っていても、そういう方が多くて「ネット依存」と言ってよいのか分からないのですけれども、そういうのをずうっと続けていってしまったら、どういうふうになってしまうのか。

【水源師】

まあ、それを持っていなければ、まだ自然とのつながりがちゃんと見えて「ここで生きている」という宇宙のつながりが分かりますけれども、そういうふうにならずうーっと（今、世界中です）思考と心がそっちに行ってしまうえば、そちらのタコの足みたいに、全部ここにつながってしまうから、ここでほとんどコントロールされて、ここで出す情報とか全部コントロールされています。

というのはエドワード・スノーデンがロシアに逃げたでしょう？ アメリカのNSA（アメリカ国家安全保障局）。彼は普通の人ではないのですよ。彼はスパイを要請する先生なのです。全ての秘密を持っているわけなのです。だから、アメリカとしては香港に着いた途端に殺したかったわけ。中国で引き入れたかったのだけれども、引き入れたら第三次世界大戦が起こるから。それでロシアに6カ月、核戦争をやるかやらないかの決着で、やらないということになって、ロシアにいたわけ。

ということは結局、今インターネットとか携帯電話、あなたたちは全てコントロールされているわけ。これが『1984年』（ビッグ・ブラザー）という小説があります。サイエンス・フィクション。その当時、私はあり得ないことだった。一体どうして皆さんを電話で聞いて盗聴できて、コントロールできるのかと、全世界の人を。ところが、何とインターネットです！ このインターネットというのは、ペンタゴンの秘密兵器なのです。それを一般に開放したわけ。その前は「観音様は私たちの願いを聞いてくれる」ということは、どうしてあり得るのかと。

というのは、私たちはテレビを見るでしょう？ ラジオを聞くでしょう？ 一方通行でしょう？ これが回答。できるということは考えられなかったわけ。インターネットが出て、なるほど、あちらからも聞ける、こっちからも回答できるという、この宇宙の真理が、そのとき初めて分かったわけです。世界中でこうやっているでしょう？ その中でやっている間に、心をコントロールするパルスもあるわけなのです。これは1950年代から「いかにしてブレインウォッシュ（洗脳）をするか」という。

だから、テレビもずうっと見ていたら、あれの影にパッパッと、パッとパルス信号があるわけです。だから、テレビを見たら消せないわけです。カチャ、カチャ、カチャ、カチャって。絶対、消せない。というふうに、頭を、心をコントロールするパルス信号を出す、ということは一生懸命、研究していたわけ。最後はこれでもう離せないになっているわけ、パルス信号を出すから。あれをここにやったら、頭が焼けるわけ。

だから、脳を手術した人は震えるから持てないのです。自然体の場合もまだ防御があるけど、手術して頭に来たときは、それが壊れてしまうから。ただ、それは線をつなげれば防御できるけど。持つだけでも体が震えてしまうという、すごいものなのですよ。これはペンタゴンに深く関係する人から言われたのだけれども、リンダ・モールトン・ハウ (Linda Moulton Howe) という、アメリカのペンタゴン将軍たちと深いかわりがある人が、この知識は「地球外生命体から受けたものです」と言っていますよ。

だから、これくらいコントロールされているわけ。福島原発も起こるべくして起こる設計だったし、起らなければおかしい状態だったわけ。なぜこの原発なのかと言ったら、これはMOS型といって原爆を造る製造機なわけ。長崎、広島がやられたでしょう？ これが原爆を造る世界最大の原爆工場なわけ。57基。それでなくてもトリウム原発 (Molten Salt Reactor: 熔融塩原子炉) という、全くとっても安くて安全な方法は原爆を造れないから、ご破算に願いまして、最も危険なものを今、造っているわけ。ということを知っているけれども、言えばクビになるから言えないわけ。新聞社が言ったら、新聞社が潰れるから、言えないわけ。

政治家が、時間がない、勉強する時間がありません。もう「選挙、選挙」で、それで走り回って。だから、お釈迦様が結局、「家畜になるな」ということは「自分で勉強しなさい」という。ところが、そういう情報は英文でしか見られないから、何を意味しているか、科学的な知識がなければ、分からないわけです。ということで「何かおかしい」と、皆さん思っているけれども、情報を与えられていないから、「おかしい、おかしい」と思って、これが非常に「心の病気」が日本に蔓延しているわけ、スッキリしないと。

私は携帯電話を持たないのです。非常に困ることがあっても、持たないのです。私の場合もう嫌な電波を感じるのですね。だから電話が大嫌い。その情報を得るために、もちろんコンピュータを仕方なしに見るけれども。あとは今回、ミャンマー、韓国でお寺、お寺だからね、一切テレビもなし、インターネットもなし、情報ゼロで自然の中で「ああ、いいな」と暮らしてきました。ま、そういうことで、電波通信機器の世界では、結局、思考停止に走るでしょう？ 思考停止。これを10年、20年、続けたら、次の世代は完全にすごい劣化が起こるでしょうね、心の修行がもうゼロになってしまうから。できないようになります。これ

が恐ろしいことです。

いかにして本当の心の究極の世界に達する瞑想指導者をつくるか

だから、今、日本では、最大の問題は「いかにして、本当の心の究極の世界に達する瞑想の指導者を作り上げるか」ということが、今、究極の問題ですね。これがなければ、風前の灯火、もう完全にやられます。これは 400 年前のウィリアム・アダムス（三浦按針）の三浦半島の大名城。イギリスからのセッティングで、400 年前に「どうするか」ということをもう歴史的にバチカンで決めているから。

という情報も全部シャットアウトでしょう？ その小さいこと、小さいことばかりを掘り返して食べ物、旅行、何とか、こういう心の進化を止めることばかり一生懸命やっているわけ。ところが、皆さんは、この仏法の国で座れるわけ。だから、死んではいけないわけ、ただ眠っているだけ。これを眠らせて、目を覚まさせないように今、しているわけね。西洋の方の思想は、はっきり言って「ない」ですよ。あなた方は本を読んで「西洋文明はすごい」と思っているでしょう？ 私の生徒は教授連なのです。本は読み尽くすくらい読み飽きている人ばかり。

なぜ、私のところに来るかと言ったら、明快に回答して「なるほど、間違っている」ということが分かるから。間違ったことを日本では喧伝して、それを「勉強しろ、勉強しろ」って。本当にお釈迦様が指摘した世は「痴」、世は狂っていますね。というか、狂わせる、狂わせる仕組みをつくっているのか？

というふうに、京都でも言ったけれど、ケンブリッジ大学の客員教授になって、東京の大学院の教授、『清浄道論』、『解脱道論』について書いているけれども（『上座部仏教の思想形成—ブッダからブッダゴーサへ』¹）、てんでお話にならないものを書いているわけですよ。本人は分からないで書いているわけ。行をしたらすぐ分かるわけ。日本は肩書きだけで行っちゃうのですね。宣伝だけで行ってしまいうわけ。ということはもう教えられていないから、今は藁（わら）をもつかむ状態なのですね。そういう仕組みで全て落とし穴。一つも抜け道なし。どこを進んでも、落ちるようにつくってある。言ったら潰されるから、というふうなことだけれども。

皆さんはご先祖様、それから先代の偉い和尚様からの何か不可思議な力が残っているのですね、この日本に。だから、こうして座れるわけなのです。それで「お寺参りはする」、それに「仏法は何か有り難いものである」ということは感じる。これはすごいことなのです。なぜかといったら、南米に行ってご覧なさい、仏法なんてないのだから。では、イスラームになれば天国に行けるかって、ちゃんちゃらおかしい、行けないような仕組みなのですよ。なぜかといったら、私の友人がイスラームの非常に高い行者のお父さんがお話ししてくれました。「一体どうして天国に行けるの？」と聞いたら、「はい、大体 3 キロくらい離れた岸から岸まで一本の針金を渡るように、そういうふうに修行しなければ、対岸に着きません」と。

¹『水源禅師法話集』第 29 巻参照。

だから「誰も行けない」ということ。

ところが、今回、ミャンマーで非常にすごい栄光を受けたのですね。私がヴェーダナーヌ パッサナー、受随観を言ったら、ズワーツともう涅槃の寸前まで行った、そんなことをしなくても数日で。だから「お釈迦様の言っていることは本当だ」ということ。もちろん、この人はすごい体験もするし、私と同じように 20 代前まで過去を観ているから、普通の人ではないのですよ。

「では、この 1 代で、そういうふうに涅槃に達せないか？」と、「そら達せる可能性はあります」と。「ただ、正しい修行を受けて、過去の因縁もあります」と。だから、靈光和尚さんですね、それが一番目の達磨大師様の弟子になった「慧可」という名前をもらいましたけれど。「慧可」というのは「仏法の果物を受けた」と。その代わり「腕を切り落とさなければいけない」と。これは因縁によって、彼は菩提達磨様の歯を 2 本、折ったわけ。これを折る因縁は前にあるのだけれども、折ったおかげで阿鼻（無間）地獄に墮ちるところを、彼はその前に仏法を一生懸命、広めていたからね。

それで、閻魔王の裁判官に「そういう生死を超える方（達磨大師）がおるのだったら、その方（から法）を受け取る時間を下さい」と。ニヤニヤ笑って「よし、行きなさい」ということで 9 年間、菩提達磨様の後ろに膝を付いて、こうして拝んでいた、立っていたのですよ。「証拠も見せろ」と。

結局、「因果の法則」というものはすごいもので、この歯を 2 本、折ったおかげで、腕を切って証明しなければいけない。だから、過去をしっかり観なければいけないし、ナーマ・ルーパ（心と体）、名色もちゃんと観て、それで因果が分かることであって、それを經典から学んで「ああだ、こうだ」より、南無阿弥陀仏でも阿弥陀様でも、それだけでもよいわけです。それだけ一心にやれば往ってしまうから、心なのです。そんな難しいこと一つも要らないわけなのです。

ただ、またちょっと悪いけれども、パオで 3 年間いる、この日本の堀ゆきおくん（サーサナワンサ氏）が「(ウポサタの) 経頭になった」って。「経頭になった」って言う方が 227 の戒を覚えて「【水源師】君は 1 回やったのか?」、「【サーサナワンサ氏】はい、1 回やりました」と。227 をやっても平然と嘘をつくわけなのですね。

では、何のための 227 を頭で覚えて言うわけ。これが現状なのです。227 を朝から晩まで唱えて人の前で言っても、平然とこんなことを言うわけだからね。「【サーサナワンサ氏】(マハーカルナー氏が) 16 年ワサがある」と言う。「【水源師】いや、ないと言っているよ、事務所では」、「【サーサナワンサ氏】いや、実は、そのことで (マハーカルナー氏が) パオ・セヤドーに相談したらしいそうですよ」と。

相談できないのですよ、パオは 100 人、200 人いて一人、夕、夕、夕、夕と短く言うくらいで、パオではそういうことは一切、手を付けられないわけ。そこは事務方がやるくらいで関係ない。だから、日本では「パオ・セヤドーに聞かなければ」と、バカなことばかり言っているわけです。ということが現状だから、まあオレオレ詐欺に引っかからない方がよいですよ。何の徳もありません。馬鹿を見るだけです。ということが操作でやられているわけ。全部、仕組み。よいですか。

瞑想は最高の先祖供養

【参加者】

京都で合宿に参加させていただいて、いろいろ発見もあったのですが、お寺で瞑想するって、ほとんど経験がなかったのですけれども、自宅に浄土真宗の仏壇があって、家は浄土真宗（本人は瞑想者）なので、仏壇の前で瞑想とかやっても大丈夫なのでしょうか。

【水源師】

もちろん大丈夫です。それこそ善いことです。それは先祖供養にもなるし、結局、瞑想するということは、心から、あなたが観えなくても、心のニミッタが発するわけ。これは先祖に対して大変な供養になるわけ。だから、これほどすばらしいことはない。

【参加者】

亡くなったじいちゃん、ばあちゃんの写真を前に立てたのですけれども、今はそれ立ててないのですけれど、立てた方がよいのですか。

【水源師】

立てた方がそれはよいと思いますよ。供養になります。葬式仏教は葬式仏教で言うけれども、南伝でも非常に葬式は大切に、ミャンマーでもそうしています。それで一番大切なのは、ミャンマーでびっくりしたのは敬老なのですね。お年寄りの方を非常に敬っています。今、敬老精神が日本では失われているでしょう？ 西洋のまねして、これは野蛮なこと。敬老がない国は仏教ができなくなります。何か儒教のことを教えているけれど、言っているけど、実は、お釈迦様も「敬老をなさい」と、お経の中で、経典の中で明快に言っています。

それで、葬式もスリランカでも一生懸命やる、カンボジアでもやっているし、ミャンマーでも一生懸命やっています、供養するということで。それで「1年に1回、供養する」ということで、お金を出して、お墓に行って、お参りしていますよ。だから、ミャンマーでも「正式に瞑想できる」というお坊さんは、なかなかできないわけです。体力とか精神的とか。それで、つい経典仏教に走ってしまう、理論仏教。それで分かったつもり。

それで、今回もパオに行って、その帰り、そのすごい大和尚さんが、これからタイに行ってダンマトーク（法話）をすると言うから、「あなたパティパッティ（patipatti：経典を深く洞察する）¹では意味ないよ。パリヤッティ（pariyatti）も全く意味ないよ。あなたパティヴェエダ（pativedha：瞑想）を教えなくて、何の意味があるの？」ということをつつと聞いて、傍に聞いていた將軍の奥さんと言う方がびっくりしてしまっただけで、「全くそのとおりだ」ということが分かるわけよ、

¹ pariyatti（信、解—信じて話を理解する）：説法を聞くこと。

patipatti（修—文献を研究する）：お経を読んで考えること。

pativedha（證—瞑想で悟る）：瞑想で体得すること。

いつでもこうお参りみたいにお布施し、もう「有り難い、有り難い」と、何の徳もないのだしね。一般民衆は悲惨なことになっているでしょう？ その貧しく生活する方は、パオのスタンレパーク別院はきれいだし、もう天国ですよ、すごい道場で。それと一般の民衆（お寺の傍に住んでいる方）は、こんな小っちゃいところで家族4人で汚いところで料理して住んでいるわけですよ。Natural Monastery（自然僧院、15-16頁参照）というセヤドー（長老）ね、私を大好きで「200人の比丘に教えてやってくれ」と言う、時間がなくてね。教えても、受け取る人がいなければ無理、教える気ないです。時間の無駄、パーティーではないのだから。受け取る人があったら教えるけれども、200人ただ座って聞いて、やる気なければ、何の意味もないでしょう？

だから、今回、こういうすばらしい人が「教えてください」ということで受け取って、善い結果を出したわけ。これ一人だけ教えれば、後につながるから。というふうに「理論仏教ではダメ」ということで、彼も必死になって住所を変えて「是非、今度、教えてください」と言う。ミャンマーでは比丘が比丘だけにしか教えられないからね。ま、そういうことで、結局、お釈迦様の本当のことを学べば、少しでも本当のことを学べば、因縁が善くなるのです。悪いサンカーラ（行、形成作用）が消えてしまう。

ヴェーダナーヌパッサナー（受随観）でやれば、非常に簡単にサンカーラ・ウペッカ（行捨）に入るということは、体の「キレサ（kilesa）」（煩惱）が消えてしまうわけ、煩惱、キレサといいます。サンカーラというのは「受想行識」、「識」、これがきれいになってしまうわけ。だから、非常に簡単で病気も全部、消えてしまう。だから、ゴエンカさんがやっていることは正しいわけ。

ただ、それを伝えるミャンマーの比丘のクラスに教える機会がなくて、消滅寸前になったということで、今回はすばらしい結果を出したのですけれども、供養は大切です。どんな天界に行っても、こっちで供養してやれば、この「慈悲の心」が「遠くに住むものでも」（『慈経』）と、このこと。この地球ではなく「他の天体・時空にいる方でも」と、それが「遠くに住むものでも」、「これから生まれようと欲するものでも」という「未来の方にも」と。心がつながっているから。

ただそれを「葬式仏教、葬式仏教」と言っているけれども、実はそうではないわけ。ただそれに莫大な金を投げると、ここが問題であって、それで考えあぐねた挙げ句が今度、京都で、これは「一乗塚」というのをつくって、お金に苦勞している家族は、ただそこに骨を埋めれば、私が1年に1回来て、供養してあげますからと。ということを示しておいたけれどね、ま、それができれば、まあ頭痛くないと思いますよ。死んだ後でもたくさんの金が取られるというのは、これもどうかと思う（笑）。ま、そういうことでどうでしょうか。



パオ僧院スタンレパーク別院（ヤンゴン第一別院）の長老と水源禅師



スタンレパーク別院でお経を最後まで聞くカエル

受随観の仕方について

【参加者】

この間の京都の修行のことなのですからけれども、受随観、口の中、あごと歯のところですかね、この辺がかなりよく観えるようになってきたのですけれども、こっち側を一本一本、順番に観えるようになってきたのですけれども、そういうふうにあまり観ない方がよろしいのでしょうか。

【水源師】

よいです。それは非常に素晴らしいことです。心がそこを観ようというから観るわけ。それはスケルトン修行になります。骨を全部、観えるわけなのです。それが第四禅定でやるか、ジャーナを使わないで禅定に入らないでやるかのことだけれども、観えれば、それは同じ結果になるから。どうしてもそれは通過しなくてはいけない瞑想の行法の一つになっています。

【参加者】

一本一本、感じているときに圧迫感というか圧力感というか、歯にこう圧がかかるような。

【水源師】

それは体がこれから起こる将来の悪いサンカーラが消え始めている証拠。だからどんどん続けてください。

【参加者】

刺激とまではいかないのですが。

【水源師】

そうでなければ、歯が抜けたり、手術する状態になるから、今、それをやれば、将来それがなくなります。すごいことなのです。だから、今回、韓国でも将来、ガンになる人がパッと消えたしね、頭を手術しなければいけない脳腫瘍の結果を出すことがすぐ分かって、それが消えてしまうから。あまり時間をかけないように。速すぎてもダメです。サーッと水がゆっくり身体を流れるようにスキャナで行く。それは絶対、守ってください。

【参加者】

部分的のときじゃなくても？

【水源師】

部分的のときはよいです。3回やった後、部分1回だけ、それは守ってください。これは私の教えではなく、お釈迦様がそう言っているから、私はお釈迦様を超える法を持っていないので、やはり法に従った方が善いと思います。そういう瞑想法もあります、そこだけ慈悲

の力で起こって。でもね、それは結果が非常に薄くなると思います。そういうスキャンする瞑想法もあります、実際は。でも、正式なこれでやれば、非常に善い結果が出しますから。その方式は方式どおり、これはお釈迦様が教えた方式だから、これを超える教えは、いまだにないと思いますから。最高の教えですから、そこでやってください。

【参加者】

はい、分かりました。ありがとうございました。

インタビューの大切さ—現象について—

【参加者】

生駒山の合宿に参加させていただきまして、その節はありがとうございました。合宿中は瞑想やっていますが、眠気が差しちゃって、たまにあれだったのですが、あれから合宿が終わって自宅に帰って瞑想していると、体の中で痛みがある場所の痛みがスッと消えたりとか、そういう感覚が分かるようになってきて、アレーッとすごく楽しくなってきた、合宿から帰ってきて1週間くらい、10日くらいずっと調子よくやっていたら、私の場合はニミッタなのかどうか、よく分からないのですけれども、紫色の。

【水源師】

それは観音様のお知らせで、薬師如来ということもありますけれども、それは観音様の現象です。

【参加者】

以前も時々、観えていて、それで合宿から帰ってきたら、わりと頻繁に観えるようになってきて、あるとき、ビー玉のような透明な球が規則正しく並んで。

【水源師】

それは第一禅定に入る前の現象です。そのままアナパナ（入出息念）をやれば、ニミッタの世界に入っていきます。

【参加者】

そして、ビー玉の中が一つずつに動いているのですね、「すごい、何だろう」と、不思議に思っていて、そうしたら、紫色のモヤモヤが、霧が晴れるみたいにサーッとなって、映像が観えてきて「何だろう」と思って、しばらくこう眺めていて、木の門を開けて外に出たら草むらで、草むらを走ったり、建物に入って、お坊さんのようなお師匠様らしき人とやり取りをしていて、そのお師匠さんのような方から絵馬みたいな護符を書いている様子で、何か私がお客様に接待するような準備をしていたりとか、ちらっと何を書いているのか見たら、金の文字で何か書いて、何かそんな映像が出てきて、へーとって。

【水源師】

それは過去の前世で、そういう偉いお坊さんに出会ったはず。それはナーマ・ルーパを終わって、ダンマヌパッサナー（法随観）でやれば、その意味が明快に分かります。

【参加者】

「それは夢じゃない」というのが、意識があったのですね。

【水源師】

次元がくっ付いてしまうのです。時空を超えてしまうから。それは心が一切の情報を持っているから、それが出てくるわけ。

【参加者】

今までそういうことがやはりなかったので、きれいに紫が晴れていて、パーッと出てきて「あーこれがそうなのか」と思ったのですけれど、そのうちにちょっと怖くなってしまって、そうしたら、怖い気持ちが出たら、その後も夢みたいのが毎日、出てくるのですね、ただ紫のところから入るのではなくて。

【水源師】

あなたはアナパナやって、タッチングポイントだけやってください。そうしたら、非常に強い力になって、ニミッタになって空中にとどまりますから。

【参加者】

その後、はっきり映像ではないのですけれど、紫のが見えやすくなってきているのですね、意識するというか、わりと以前よりも頻繁に現れるようにはなっているのですが。

【水源師】

それは結局、アナパナによる高德によって浄化しているので、ニミッタがよく観えるということで、ニミッタはいろいろな条件を出すわけなのです。その一つで今度は法随観でいくかいかないかによるわけ。

【参加者】

もう一つ、夢で梯子を登っている夢があったのですがけれども、途中まで登って部屋の中らしく、上の方の棚みたいなのところにいっぱい本みたいなのが置いてあって、それを「あーこんなところに入っている」と思ったら、梯子がぐらぐら動いて、その先、上に上がれなくなって、なっちゃうのですね。もっとここでしっかり勉強みたいなものが必要なのかなあと？

【水源師】

逆です。「本は見るな」ということ。それを見たら失敗します。そのことです。

【参加者】

それが自分の中でどう解釈してよいのかな。

【水源師】

そういうときに瞑想者が回答しなければいけないわけ、これは何を意味するか。だから、そういうときにインタビューが必要でしょう？ 今回、京都では「一禅ごとにインタビュー、インタビュー」で行ったでしょう。こういうことで迷ったら、よいものをなくしてしまう。

【参加者】

京都に行きたかったのですが、ちょっと家の事情で行けなくて。

【水源師】

アナパナだけでやってください。そうしたら、光が強くなりますから。そして、そのときに安定しますから、そのときに連絡してください。

【参加者】

あんまり怖いとか。

【水源師】

ただ、それは2時間半かかるのですよ。3時間半、私はやらされたけれども、普通はよほどでなければ、3時間はできないのです。私の場合は疑われたから、6時間半やらされた(笑)。だから、いまだに誰もパオでやった人間はいないわけ。ま、それは別として。そのまま続けてください。ただ、それが1時間できたら、ご褒美として、すごい行法を教えてあげます。

【参加者】

アナパナというのは「鼻から吸って、鼻から吐く」という？

【水源師】

それだけやって、それがタッチングポイントやったら、それがきれいにキラキラ星屑とか、いろいろな現象が観えますから。

【参加者】

今日も瞑想したときに銀河のような。

【水源師】

そういう現象を起こします。人によって、いろいろ状態が発生します。だから、本当にそれを体験した人間はすぐ回答できるけれども、していない人間は教科書だけで、あやふやで私みたいにあまり誰も回答しないでしょう？ ということで、どこまで修行しているか、すぐ分かるわけ、回答によって。だから、そういう人たちがダンマ（法）を発表すれば、すぐ私分かるから、発表しないのですね。本に書かないですね。

本当に体得した瞑想者から習わなければならない

【参加者】

武術が好きでして、中国武術が好きで習っていたのですが、その延長で修法を伝授された方から瞑想を勧められまして、3年弱くらい前から始めたのですが、気がこう回る「小周天」という。

【水源師】

ああ、あります。あれは中国の道教の手法です。

【参加者】

それができるようになって、楽しくて気持ちよかったです、毎日こうグルグル回していたのです。そうしたら、今年の1月の暮れなのですが、濃い気の塊みたいなのが、尾てい骨の先端にユラユラユラユラ、怖いなあと。

【水源師】

それはクンダリーニが変化を起こして、私も少林寺に行って、菩提達磨の洞窟で瞑想したのですよ。瞑想するのは、少林寺拳法を完全にマスターした後にしか教えないのです。だから、あなたはこれからその状況を見たら、もうこれはやめた方がよいです。

【参加者】

そのときは1月の今年、入ってから、こうユラユラずうっと感じていまして、しばらくの間、瞑想が怖かったので、あまり座らないようにしていたのですが、そうしたら、寝しなに襲われたと言いますか、ポン、ポーンって。

【水源師】

そこが問題なのです。その行法はなぜやるか、知っていますか。

【参加者】

いや、分かりません。

【水源師】

だから、そこが問題なのです。この行法はガンになったとか、それから病院のお医者さんが治せないというときに使う行法であって、本当のそれを知っている瞑想者から習わなければ、本を見て皆やるでしょう？ ここが大問題なわけ。一体、何が起きているか、どういう結果になるか、分からないでしょう？

だから、我慢して、まずただ座ってください、先ほど説明したように、ただ「鼻から吸って、鼻から出す」と。大体、普通の人には胸で呼吸するのですよ。赤ちゃんを見ると、お腹で呼吸しているでしょう？ 犬を見ても、動物全てお腹でしょう？ これが自然の呼吸法で、自然体でまずやること。自然にお腹で、ただ「鼻から吸って、鼻から出す」と、これをアナパナサティと。アナパナというのは「鼻で吸って、鼻で出す」、サティ（念）というのは、それにマインドフルネス、ちゃんとしっかりと感じるということ。

なぜこれが大切かと言えば、その前に絶対に仏に帰依していれば、信心という、信心、定とサティ、念。信と念。信念がくっ付いているわけです、名色のところで。そこで、瞑想する前に仏像に頭を下げて、これが信です、帰依すると。だから、非常に仏像があるということは大切なことなわけで、心から帰依すると。それで、そのときに帰依するおかげで、これをやっていけば、アナパナサティ、サティ、マインドフルネス、信念になって、これでパンニャ（智慧）に飛んでいくわけ、般若、パンニャ。

【参加者】

そのときはもう何カ月も前なのですけれども、バーッと来て、びっくりして頭ブヨブヨになって、頭蓋骨が開いていたのです。それでもう怖くなっちゃって。

【水源師】

それはね、密教の行者がやったり、危険なことだから、そういうことをしなくても涅槃に行けるから、簡単に。

【参加者】

瞑想は続けたいのですけれども、こう座れば、気が回りますし。

【水源師】

それは最初からもう、さっき言ったように、一心に仏に帰依して、ここだけ、アナパナサティから、ゼロから始めること。ゼロから始める。そうでなければ、これから大変なことになる。頭がおかしくなってしまう。ここが大問題なわけ。本に書いて責任、取らないわけよ。あと雲隠れ。やった人間は、あと信じてどうなるの？

ということで、今こういうふうに明快に皆さんに説明しているわけなのです。それもオレオレ詐欺の一種で、本（『暗号は解読された 般若心経 改訂版』）を読んで、さっき言ったでしょう、「元北海道大学応用電気研究所の人が数学的に『般若心経』を解読した」と、てんでデタラメ。京都で言ったでしょう？ だから、一般の人は知らないから、何でも信じてしまう。

【参加者】

瞑想すること自体は大丈夫ですか。

【水源師】

大丈夫です。ただそのとき、あなたのような現象で怖くなるということが、たくさんのお坊さんに発生してしまう。怖くなってしまってやめると。なぜかといったら、それは過去の因縁によるから。過去の因縁が今、出てくるわけ。そこで、我慢して、それを通過すれば、その悪い因縁が消えていくわけです。ま、もう少しがんばってやってみてください。「ただ簡単に、簡単に、頭は空っぽ」。

それで、そのときにさっき言ったように、私の先生、印幻禅師が教えてくれたのは、グウーッといっぱいに、お腹いっぱいに膨らませて吸って、肛門をギュッと閉めると、5秒。それでゆっくりと空気を離していくと。これを5回。必ずやって、我慢して。そうしたら、こちらの方に気が移るから。それから今度ゆっくり一切、考えないでやる呼吸法、それが無理だったら数息観、お腹を何回やったか、それでやってみてください。

【参加者】

一番辛いのは、寝られないことがよくあるのですね。

【水源師】

そこです。実は瞑想やったら、スッキリ眠れるというのが、正式な現象。眠れなくなるというのは、これは間違った行法です。それが高じて6カ月、眠れない人もいますのですよ。どうなりますか？ 地獄でしょう？ だから、正しい行法を知った人から正式に教わらなければ、こういう現象がもう津々浦々、発生してしまうわけ、知っているようなふりして。それで、そういう人は、後は雲隠れしておしまい。

【参加者】

見る夢がこう変わったのですが、よくお不動様の夢を見るのですが。

【水源師】

それはすばらしいことで、結局、名前はアチャラ (acala) というのですね、サンスクリット語で。これは大日如来の化身。太陽の仏の、全宇宙の千仏の化身ということで、やはり「真剣に勉強してください」ということだね。

【参加者】

朝、近くに不動尊があるので、勤行に出るようにしているのですが、続けて？

【水源師】

そのときも正式に勤行を分かった人から教わるか、自分でマントラ（真言）を読んでいて、その中でピタッと来たら、そのマントラだけ。それだけ、後はほとんど密教でも、密教をしていないのです。

なぜかといったら、四梵住（brahmavihāra、ブラフマ・ビハーラ）という行法をやらなければ、護摩焚きができないわけです。ところが、大体、知ったつもりで、慈悲の瞑想が入ってしまうけれど、それは第四禅定でブラフマ・ビハーラ、四梵住と行をやらなければ、できない行となっているわけです。

だから、弘法大師様が「アナパナやる行者が甚だ少なし」と、今から1200年前、嘆いているわけなのです。だから、下手に教えられたら、大変だから、逆にあなたがピタッと来る、今、アチャラを見た場合には、必ず過去の因縁で守られているから、その行法も過去の密教の因縁でなっているはず。教えられたはず。普通はそこまでいかないのです。

だから、それは全部やめて、ピタッと来るマントラを見つけ出して、それだけでいくこと、後はこの瞑想。それで、全て治って寝られるから。大切です、今とっても大事なところ、これおかしくなったら、大変なことになるよ。舌も焼けちゃうよ、パーンて。

【参加者】

はい、分かりました。ありがとうございました。

ほどほど楽しくやってください

【参加者】

京都の合宿に参加させていただいたのですけれども、お恥ずかしいのですけれども、家に戻ってからは、瞑想をさぼったりすることもあるのですけれども。

【水源師】

そら、よいです。全然関係ないです。いったんやれば、やっただけの行果が残っていくから、あまり心配しないで、できないときは、できないでよいです。

【参加者】

さぼっているのが続いていたときに突然、鼻の下辺りがビリビリと来て、瞑想しているときの感覚が突然、来まして「やれっ」ということかなと。

【水源師】

もちろんそうです。体が要求しているわけです。

【参加者】

そのときはスルスルッと進みました、無理せず。

【水源師】

そうです。私もさぼったら、体がおかしくなって、病気がちになるわけです。「あ、これは瞑想しなければいけない」と言って、やったら、またスウーツとなるわけ。そこはまた適当にあまり無理せずに、瞑想という仏法は、そんなに厳しいものではなく、「ほどほど楽しくやってください」ということだから、あまりキチキチやったら、何もできなくなる。頭おかしくなっちゃう。そういう結果、たくさん見ました。あんまり真面目にやって、何もできなくなって、頭がおかしくなった人をたくさん見えています。できるだけ30分は座るように、ただ、できないときは仕方ないということで、いろいろな条件で。そのうち6カ月もサボれば、体がおかしくなるから、やらざるを得なくなる。

パオ森林僧院モーラミヤイン本部では登録されていない日本道場

【参加者】

マハーカルナー先生のことなのですけれども、マハーカルナー先生、日本人名が金森さんなので、何か先生の言っている堀さんとは別人だと思うのですが。

【水源師】

それは慶応大学の若いサーサナワンサさんで、マハーカルナーさんは金森さんです。同一人物です。(マハーカルナーさんの)本名は、比丘の名前はカルナーチャラ。比丘戒を16年前に除名されました。パオでは比丘戒は受けられないようになっています。パオでは誰一人、知りませんでした。マハーカルナーという人を誰も知らない、先生も知らない。

それで、日本人のこの堀ゆきお君に聞いたら、「知っています」と。だから、あなたが私に「パオで知っています」と言ったでしょう？誰も知らないですよ。どうしますか？だから、そういうふうに私が言ったことをそのまま受ければよいのに、私が聞かざるを得ない状況に追い込んだでしょう？「いる」と。「聞いたらいる」と。日本人一人だけ。そこでは手紙も一切、出せないのに出しているわけ。全て戒を破っている方。

だから、「誰がこれを持ち上げたか」という責任者が誰もいないわけ。原因はクムダセヤド一さんのところにしかないわけですね。まあ、いい加減デタラメもやめたらどうですかね。だから「修行しなさい」って言ったでしょう？4、5年前から。大変なことになるよ。他の人をだますことになるのだからね。この方(マハーカルナーさん)は在家の資格しかないのですよ、パオで。選ばれるわけもないわけなのですよ。だから聞いたわけ、「何で選んだの？」と言ったら、「選んでいない」と言っているわけ。「8カ月で全過程を修了した」と、とんでもない。(レワタ長老・コウイダ長老も)「何もしていない。教えていない」と言うのだから。

そういうふうに、コウイダ長老に聞ける人間が日本にいるのですか？英語で。そこが大問題。彼は私の同僚だから、「何も教えていない」と言っているよ。どうするのですか、これ。

「8カ月で全過程を修了した」って嘘八百ではないですか？君は、そのときにパオは「(16智の)第四の生滅随観智(udayabbayañāna)までしか教えていない」と言ったでしょう？ど

うするのですか？ そんなことを言って。それを私が言って「随順智 (anulomañāna) まで教えている」と、すぐ改めたでしょう？ 覚えていますか？

だから、こういうことをすぐ信じ込んで、それを言うのは「やめなさい」と。「自分で修行して確かめなさい」と言っているわけです。そうであれば、他の人を連れ込んだときに、あなたに私はなぜ言ったかと言えば、あなたが地獄へ墮ちるところを私が助けたのですよ、止めて。法を破ってしまうわけ。それほどすごい恐ろしいことをしていることすら分からないわけ。仏法をそういうふうにいじくりまわすものではないのですよ。命を懸けて法を求めてもなかなかできないのが仏法で、いったんあなたがこれをやれば、どれだけの因果の関係でおかしくなるか、分かりますか？ 特にあなたは「アビダンマをやれば、すぐ分かる」と、とんでもないことを広めてしまったでしょう？ とんでもない話、誰も分からないよ、ミャンマーでは。

【参加者】

そんなことは言っていないです。

【水源師】

そうですか。そんなことのように受け止めたけれど。だから、私は、これはあなたを助けるために言っているのですよ？

【参加者】

何かのすれ違いだと思いますよ。

【水源師】

すれ違いがどこにありますか？ どこにすれ違いがありますか？ パオ総事務局長がスリランカに電話をかけて「この人（マハーカルナーさん）はスリランカに2日だけいて姿を消した。その後、除名しています」と。どこがすれ違いですか？ 私が聞いているのだから。それをあなたは「すれ違いではないか」って、やめなさい、そんなことは！ そこまで言うのだったら、「あなたがパオに行って、聞きなさい」って言ったでしょう？ 「すれ違いではないか、こうではないか」と。人をだますことになるのですよ。そういうことを言って「ああ、そうかもしれない」という人間がいたら、どうなるのですか？ 「思い込みではやめなさい」と言ったでしょう？ 「実際、自分がミャンマーに行って聞きなさい」と言ったでしょう？

それを私に「パオ・セヤドーに聞いてください」って、デタラメも甚だしいではないですか？ パオ・セヤドーは今、病院で治療を終えて、今はちょっと治っているのですよ。それで、パオ・セヤドーに一般の人は話できないですよ。「もういい加減にきなさい」と言っているわけ。私がなぜここまで言うかと言ったら、あなたを阿鼻（無間）地獄に墮としたくないから、言っているのですよ。あなたは何をしているか、さっぱり分からないでしょう？

これが最後の忠告、「あなたが好きだったら、そこに行きなさい」ということ。これは大変なことなのです。だから、そういうパオの偉いお坊さん、セヤドーでも、私に「経典仏教

をやめなさい」と言われているのだから。それを「修行もしていない、何もしていない、一般の在家が、大学の教授より偉いことを分かったつもりでやる」ということが、大変、悪いことでしょうか？ 何も修行もしていないし。そのコウイダ君は2カ月しか教えていないのですよ。聞いたら「何も教えていない」と言っていますよ。すれ違いですか？

【参加者】

「ウ・レワタ長老さんから習った」という話なんですけど。

【水源師】

ウ・レワタ長老は「教えていない」って言っていますよ。どうするのですか？ 2カ月間だけ。あなたはこれに対して責任がありますよ、そういうことに対して。何を根拠にして信じているのですか？ 何を根拠にして、それが正解という情報を言っているのですか？ 私はあなたに「確かめなさい」と言ったでしょう？ 確かめないで、それは誰からの情報ですか？ マハーカルナーという比丘はいないのです、いまだに。

では「パオ全体が嘘をついている」ということですか？ 私の友人のスマナンダが10年比丘で「カルナーチャラは知っているけど、マハーカルナーは知らない」って言っているよ。比丘だよ。あなたはそういう人まで否定するのですか？ 総事務局長のウ・クムダ長老も否定するのですか？ 「記録にないのです」って見せてくれた。私も見ました。記録ない！

それで、ここまで持ち上げて皆を、そのスマナサーラさんみたいに「色即是空はあるが、空即是色ない」なんて、これまたやるの？ 大いに反省して、本気に真剣に悔い改めなければ、本当に大変なことになるよ。私は行をした人間で言っているのだから。ただ普通の会話ではないんだよ、これは。「法を曲げて教える」（謗法罪）ということは大変なことなのよ。自分のお父さん、お母さんを殺す（五逆罪）以上のことなのよ、分かりますか？ これをあなたは平然と今やったわけなのよ、はっきり言って、私の立場から見て。

【参加者】

具体的にどういように間違っているのか。

【水源師】

「マハーカルナーさんは8カ月で全過程を修了した」と言うけれども、そういう人物はいないのです。真っ赤なウソでした。

【参加者】

うん。

【水源師】

「うん」では困る、早く回答しなさい。日本人が日本人をここまでだます日本人がいるのですか？

【参加者】

パオでも、サーサナワンサさんとかシーラウオンタさんはマハーカルナーさんを。

【水源師】

彼一人（サーサナワンサさん）だけがいて、彼だけ知って、日本人用に通告する放送役で、彼だけが知っていました。

【参加者】

それは堀さんですよ？

【水源師】

そうですよ。たった一人だけ。他の先生も誰も知らないわけ。これはどういうことですか？

【参加者】

そんなわけないです。

【水源師】

「そんなこと」って皆そう言っているのだから。事務局長をバカにするのもほどほどにしなさい。書類もないのだから。

【参加者】

「嘘をついている」って、鈴木一生さんが、もうパオとコネクションがあるから、おかしいってことはすぐ分かるはず。

【水源師】

その鈴木一生さんが、おかしいわけなのですよ、はっきり言って。それをどこまで信じてそう言うわけ。あなた、ここまで言ったら「ミャンマーに行って調べなさい」、書類があるかどうか、その責任あるよ、そこまで言うのだったら。だから「自分の口から出たことは責任取りなさい」と言っているわけ。それで修行が何とか、甚だおかしいこと、法を求めるのは、そういうふう「ああでもない、こうでもない」と。私が実際に行って記録にないのだから、写真も撮ってあるよ。写真を見せて、その後どうするの、あなたは？ 知っているのは、この日本人の一人だけ、あとは誰も知らないの。

【参加者】

サーサナワンサさんとシーラウオンタさんが今、パオに行っている方で、マハーカルナーさんを知っている。

【水源師】

事務局には日本人はこの一人しかいないの。書類上、見せてもらいました。誰もいないの。だから、そういうふうになんを根拠にして、書類もなく、言われたとおり、それを信じ込んで、それを放送するのよ。

【参加者】

放送はしていませんよ。

【水源師】

だから、今、そう言っているじゃないの？ そういうふうに嘘八百をそのまま言っちゃダメということ。私は「あなたが直接、行って、確かめなさい」って。それからまだ1回も確かめていないでしょう？ だから「責任を取りなさい」って言っているわけ、自分の口で言ったことは、「そういうことはない」とか「すれ違いだ」とか、おかしい話じゃないですか？ 実際に私が行って調べたのだから、ちゃんと書類も写真も撮ってあるよ。何も名簿に載っていないよ。一人だけ、知っているのも彼だけ。

パオでは、いまだに「マハーカルナー」は登録されていません。「どうして比丘戒を受けたか」ということも誰も分からないわけ。誰も知らないよ、パオでは。どうして受けられるのかも知らない。1回、除名されたら、南伝では受けさせません、そんなことしたら。だから、日本の人が知らないと思って、これだけデタラメやってよいのですか？ という事。それを喧伝してバツと広めて。間違っ、この人たちが信じ込んだらどうなるのですか、あなた？ 因果の関係で、その責任はどうとりますか？ これから。

私は冗談で言っているのではないよ、真剣に言っているのだよ。それも20年、30年、勉強して言うのだったら分かるけど、仏教の専門家でもないのに「手を付けるな」ということ。私の弟子の京都の博士課程でも、そんなことしないよ。恐ろしくて、知らないから、そういうことするわけ。

四つの悪い因果を造る心（痴、無慚、無愧、掉挙）があります。非常に不常識、恐れを知らない、悪いことをしている、恥を知らない、そして、いつもイライラして修行ができないと、イライラすると、人をだますと。大変なことだよ、ナーマ・ルーバ勉強したでしょう？ アビダンマ。書いているじゃない、ハッキリ。それをあなた今やっているのよ？

【水源師】

今、本人は「16年間、ブラジルに行った」と言うか、その4年前に仏光山の比丘尼が寺一つもないところで200万人の信者をつくれたわけ。20のお寺と。そういう人とは話をするけれど、なぜ私がこの人に話に？ 私はあなたがいるから、皆の前で報告しているだけよ、あなたの前で。「あなたが調べてください」って言ったでしょう？ 「そういうことはない」って、「すれ違い」と、同じことを言っている。もういい加減にやめなさい。あなたが言いなさい。関係もしたくないです。

まあ、それが南伝の修行者をあまりにもバカにするのを「いい加減にしなさい」と、真面

目にしている人がいっぱいいるのだから、南伝では。あとあと、この南伝を勉強した人が、これがバレたらどうしますか？ 私が今、こうやって言って、ストップかけているけど。私は2年前に「こんなことをしたら、第二のオウム真理教になりますよ」って、今、実際にやっているじゃない、こんなこと。人をだまして、嘘八百だよ、全部。それを平気で、まだ「そうではない」と。そういうふうにしてしまうわけ、一般の人は、あくまでも。

それで、実際に「そこに聞きなさい」と言ったわけ、ちょうどボロボドゥールで岩倉君がいたから、「おかしいよ、聞きなさい」と、絶対に聞こうとしない。ここまで言わなきゃいけないわけ。何でそんなに気がおかしくなったみたいにバカなことを、人をだますようなことをしなくてもよいのに。知らなきゃ知らなくてよいし。

正々堂々と本当のことを言って「パオ森林僧院 日本総本部」をつくれればよいのに、そういうことを（パオ森林僧院 モーラミヤイン本部の）事務局長も誰も知らないわけ。どこからこの話が出たかも、誰もパオでは知らない。日本だけは「知っている」と言う。というふうなイカサマに思われるよ。このカレンダーに載っていないの、日本は。分かりますか？ 載っていないの、日本道場は。

あれ（HP）を見たら皆、信じちゃうよ。バーツとデカデカデカッと。だから「仏教をここまでおとしめることはない」って言っているわけ。正式に勉強をして、そこで法を持って、やる方ができなければ、「できない」と、その1名の比丘、サーサナワンサさんに「あなたはニミッタを観たのですか？」と。（彼は）「全然、観ていません。だから、今は他の勉強をしています」と。それ以上、聞かなかった、それが現実。

ところが、京都ではボンボン、ニミッタを観たでしょう？ 今の話を聞いても。だから、そんな間違った勉強をしたら、ニミッタどころか、何もできないということ。だから、あなたがこうして来てくれたから、堂々と皆の前で本当のことを報告できるから。「嘘八百もういい加減にきなさい」というわけ。同期のウ・コウィダ君が「2カ月しか教えていない、何も教えていない」と。ウ・レワタ長老も「ジャーナを教えていない、ただの瞑想だけ、何を教えたか分からない」と言っているもの。なんで推薦？「推薦はしていない」って言っているよ。

【参加者】

シーラウォンタさんはパオで禅定に入って、進められたそうですよ。

【水源師】

本人が言っているだけで、誰も知らない、そんなこと。見てないのだから、誰もいないって。あなた聞いたらいいいよ、先生に。ミャンマーに実際に行って、先生に聞きなさい、その人ではなく。どうして、その人が分かるの？ 座っていて、禅定に入ったら6時間半、座らなければいけないのに、誰も見ていないのだよ、そんな日本人は。特にウ・レワタ長老は、それをさせるよ。

【スタッフ】

たぶんモービーに聞いても、意味がないと思います。クムダセヤドーのところではなくて、

先生は。

【水源師】

モービーとパオ森林は全然、違うのだから。

【参加者】

Bさんも一生懸命、求めていると思うので、あとBさんがご自分で、パオ本院で確認していただいて、確認して、それで確認したうえで、Bさんご自身でどうするかということ、ま、それでよろしいのではないのでしょうか。

【水源師】

もうそれでよいでしょう。それ以上こんなことを言って。そうでなければ、いつまでもこんなこと、空回りばかりして。

【参加者】

空回りしちゃうので、あとはBさんがご自身で確認して、そのあとどうするかというのは、Bさんがあとやられれば、すっきりするし、逆にいろいろはっきりして、こっちも助かるかもしれません。ですから、大いに期待しています。

【参加者】

では、そういうことで。

【水源師】

こっちも期待しています。直接、話を聞いてください。

【参加者】

たぶん直接つながる方法もあると思う。

【参加者】

今回、先生が帰られるということで、ご挨拶に来ました。ちょっとなかなか難しいかもしれないのですが、先生もカナダに戻られたら、なかなか日本で法話をするとか、そういったことの機会が少なくなると思うので、1カ月に1回は無理でも、例えば何カ月に1回はネット上のユーストリームとか、いろいろあると思うのですが、そういうもので法話を、まあ面倒くさいかも知れないですけど、やっていただけたらいいなということを一応、希望として、そういう状況が整いましたら。

【水源師】

ま、条件を整えたら、そうします。去年からぶっ続けて毎日12時間、働いて、それで怒涛

のごとく日本に来てバーツと教えて、韓国、毎日ダーツと行って、ミャンマーでも 4000 キロの強行軍でダーツと行ってきて、その時間があればやりますけれども。ということで、皆さんも気を付けて、自分自身を信じて、人に頼らずに「誰が言ったから」ということは、お釈迦様は「やめなさい」と言っているから、お釈迦様の教えに従って、お釈迦様以上の教えはないのだから。「自分で確かめて修行してください」と。「どんな偉い先生でも、それを確かめてしてください」ということを言っているわけ。それを鵜呑みにしてバツバツバツバとしたら、こういう結果になりますと。その挙げ句の果てに「罪のない人も誘って、大変な処に連れていくからやめなさい」と言っているわけ。情報は正確で、それくらいの修行に達して初めて確認できることであって、本だけのことで「聞いた」って何を言っているか、分からないはずだよ。

だから「そういうふうに、人を間違った、そういうふうなことをするのはやめなさい」と、「それを完全に確信してからやりなさい」と。それには自分で第四禪定に入って全部、通過した後で、これが本当であるから、そのとき発表できるけど、その前に知らずにバン、バン、バン、バンと「あーそうだ、そうだ」と言って「色即是空はあるけど、空即是色はない」って皆、信じ込んで、大変なことになるところでしたけど、そのときに 1043 冊、出したけど、今は数冊しかない、と言ったでしょう？ そのとき私が「間違いだ」って、誰も言わないのだから、これをまたやろうとしているわけ。だから、今、「待った」かけたわけ。それに B 君も「聞いてくれ」と言うからね。まあそういうことで、本人がパオ・セヤドーに直接、聞きに行っていて、そこまで彼が言うのだからね。本当かどうか、普通は会えないです。

【参加者】

パオ・セヤドーでなければ、ウ・レワタ長老、ウ・コウイダ長老か。ウ・レワタ長老にお聞きになれば、間違いなのでは？

【水源師】

パオ僧院のね。モービーはダメ。本院（モーラミヤイン本部）です。そこでちゃんと教えてくれるから。

【参加者】

分かりました。



パオ森林僧院の第三代僧院長 パオ・セヤドー（ウ・アチンナ長老）



パオ僧院ヤンゴン第二別院の長老方と水源禅師



パオ僧院の全課程を2年で修了し空を觀た偉大なスマナンダ比丘
(サンスクリット語を研究されている)



水源禪師とマレーシアのクアラルンプール別院の長老
(ヤンゴン川のビハーラで撮影)

死ぬと心や感情はどうなるか

【参加者】

私、あまりよくこういうことが知らないで来てしまったのですが、この場にふさわしい質問ではないかもしれないのですが、私の主人が今年の3月4日に亡くなりまして、何か突然だったので、すごいもうショックと後悔で辛かったですけど、死ぬ前までは人間は死ぬとか、命ある者はみんな死んで輪廻転生とか、そういうことがあるか、ないかなど、何かおぼろげにそう思っていたのですけれども、実際にこう死なれてみると、肉体はこう焼かれて、いろいろな分子になって、何かとくっついて何回も生まれ変わるのかなとか、そんなふうにするのですけれども、心とか一緒にこう暮らして培ってきた感情みたいなものは、死ぬとどうなるんだろうなっていうのが。

【水源師】

それはですね、死ぬ5秒前に次の生命体に移っています。だから、全てメモリーとインフォメーションを持って、次に生命体に入っています。だから、死んだ後の骨とか、それは抜け殻ですけども、それでもそういう物質に心が映っているから、大切にする必要があります。必ずやこの生命体に入ったアートマンというのですね。そういうものが何回も続いて行って、浄化して行って、最後は涅槃に達しますけれども、だから、そういうことは消えてなくなる、ということはないです。必ずあなたとのすばらしい時空を持って、いつの世にかまた出会えることになります。

そのときはただ仏法を持った方々です。仏法を正しくした方。もし、仏法を間違った人は、そういうすばらしい出会いはないです。明快に言います。特に人間界に生まれることは、まずないです、あり得ない。というのは、間違った情報で生きているから。だから「正しい仏法をきなさい」と。

【参加者】

彼はそういう教えとか好きみたいで、かなりちょっと瞑想したいとか、そういうことはしていたのですけど、そういうふうに行けていたらよいですけど。

【水源師】

いや、本当に愛したあなたが、ここで瞑想しても、この高德が昇天された旦那様に通じます。だから「供養きなさい」というのは、こういうこと。「本当の供養は正式な瞑想」です。「これ以上の供養はない」のです。だから、「正しい行法」を「正しい先生」に教えられれば、それは「最高の供養」になります。お金では買えません。ただ今、ここに仏像を彫る先生がいるから、そのもとで一心に求めれば、それをやっただけでは難しい勉強も要らないです。必ず、すばらしい供養になります。

合宿に来てください！

【参加者】

アナパナ瞑想をやっているのですけれども、ここらへんに紫色っぽいコアが、周りが光っている感じなんですけれども。

【水源師】

どれくらいの時間できますか。

【参加者】

今、1時間半くらい。

【水源師】

すばらしい。そうしたらね、来年9月に瞑想合宿に来なさい。それを使った行法を教えてください。ただ、それを失わないように。30分から1時間で十分です。それをニミッタといって、ここに出なくてもよいです。そういう人もいます。ただ、ここに出た場合には、その行法を、使える方法を私は知っていますから。だから、合宿で、あなたはこの状態で非常に楽しみですね。来年、合宿しますから、来てください。教えてください。

【参加者】

ヴェーダナーヌパッサナー（受随観）の基本的なやり方を一応、教えていただきたいのですが。

【水源師】

これはね、合宿で来てください（笑）。そうでなければ、無理でしょう？ 実際に対面でドンドコドンドコ教えてあげますから、これは全ての病気を治します。それどころか、もし真剣にやれば、涅槃に達する、その道もみせてあげます。

仏像彫刻はすばらしい禅法

【参加者】

今日、初めて参加させていただきました。来る前から輪廻のことについて質問させていただこうかと思ったんですけど、家族の質問の中に答えが含まれていましたので、もしそれ以外で、まだそういう修行も何もしていない、私というものは？

【水源師】

いや、あなたはたくさん修行しています。仏像を彫っています。これはすばらしい禅法です。これ以上の高德はないです。

【参加者】

ありがとうございます。

死の恐怖を超える法—嘘をつかず、人のために尽くし、真面目に正直に—

【参加者】

私、彼女の友人で、初めて参加させていただきましたが、まず自分の中で「死が怖い」という感情は、どういうふうに消化していったらよいのか？

【水源師】

それはですね、その恐れることなし。ただ三つのことだけやってください。「嘘をつかない、人のために尽くす、真面目に正直に生きてください」、この三つだけ。比丘戒 227 やっても、嘘ついたら意味ないでしょう？ それをいっぱいやっているのですよ、平気で。「嘘ではない」という項目を付けて。そんな難しいことよりも、これを三つやれば、在家も出家も関係なし。それだけで十分。必ずやそれに仏に帰依していれば、必ず善い処に行きます。

浄土禅（念仏三昧）

【参加者】

本でかじった知識しか、仏教の知識はないんですけども、「他力」という言葉が、とても好きで、その中で、浄土真宗で「南無阿弥陀仏」とか、観音様で「観自在菩薩」とか、そういう言葉を熱心な信者の方が称えることによって何か、その超えて行って涅槃に入るとか、魂が浄化される、ということがあるということか。

【水源師】

あります。それが一番、手っ取り早いのは「浄土禅」（念仏三昧）をやってください。現象が現れます。今、京都で、慶證寺で2カ月に1回か、会を開いてやっています。もし私がい合宿に来てくれたら、浄土禅は簡単です。私は39時間、瞑想して、そのときに観音様が降りてきて、ここから阿弥陀様がサーッとカルナー、火の鳥なのですね、大日如来の不動明王の迦楼羅焰（かるらえん）と一緒にです。ダーッと、一緒にです。

それで存在します。ここから 10 兆の宇宙体の彼方¹にあります。だから、普通、観えないのです²。この宇宙体でも観えないのに、だから、観音様のお力によって見せてもらいました。それで、その現象を熱心に浄土真宗でも何でもよいです、日蓮宗でも何でも構いません。本当に帰依した場合には、宗派を問わず、仏は現れて助けてくれます。だから、宗派に捉われず「何が何だか」と言うよりも、ただ仏の教えに帰依してくれたら、それでご褒美で、消えますから、恐れること一つもなし。これを三つだけ守れば、恐れることは一つもなし。

禪でのニミッタ

【参加者】

前回、大阪の合宿に参加させていただきましたけど、私は禪の法をちょっとかじっていて、毎日、少しずつでも座禪を組むようにしているわけなのですが、禪はこう半眼で目をつぶらないでやっていますので、こう集中というか、こう入るときは本当、何も考えないような、念を継がないような形で呼吸だけをずうっと入ることはできてきて（そんな長いことはないですが）、ニミッタという感じではないのですが、こう視野がグーッと狭まったり、ちょっと周りが光るみたいな感じ。

【水源師】

そのときに、それを気にしないで、それだけやってください。それだけやってください。そうしたら、ある時期になったら、私が公案を与えますから。公案は公案を通過した人間だけが与えられます、心心伝印で。本では与えられません。それだけは 10 年かけてもよいから、ただやってください。そういうふうに「空を知る」ということは、ま、秘密なのです。ただ、それだけは続けてください。また合宿に来てください。

【参加者】

はい。ありがとうございます。

ただ楽に座る

【参加者】

3 年前くらいから会社から帰ったときとか、座禪を 30 分くらいしかできないのですが、続けているのですが、身体が静まるみたいで「気持ちいいな」という感じで。

¹『無量寿経』には「法蔵菩薩、いますでに成仏して、現に西方にまします。ここを去ること十萬億刹なり。その仏の世界をば名づけて安樂といふ」、『阿彌陀経』にも「これより西方に、十萬億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極樂といふ。その土に仏まします、阿彌陀と号す。いま現にましまして法を説きたまふ」と説かれている。

²源信和尚『往生要集』には、玄奘三蔵や道宣律師の文を引用して「三地の菩薩、はじめて報仏の浄土を見る（ことを得べし）」と、三地（菩薩 52 位の修道階位の第 43 位）の菩薩になって、はじめて報身仏の浄土を見られる、ということが述べられている。

【水源師】

いや、それはすばらしいことです。最初の現象は気持ちよくて、風呂から上がった感情になります。それが第一段階です。だから、それはすばらしいことで、会社に働きながら 20 分、30 分できる、これは大成功。これを 10 年、20 年続けたら、絶対すばらしい結果が出てくるから。仏の因縁がちゃんと見て、すばらしい因縁を造ってくれます。これはすばらしいことで合格です。これはすばらしいです。もしできたら、合宿に来てください。なぜかといったら、インタビューがとっても大切なのです。あなたがどこにいるか。それで、次は何をするべきか、ということをも明快に答えられますから。

【参加者】

分かりました。ちょっとがんばってみます。

【水源師】

「まあ、まあ、楽に、楽しく、無理しないで」、これが条件です。だから、結跏でしなくても結構。ただこれでもよいし、あぐら坐かいてもよいし。「ただ楽に座る」ということによつてスカ（楽）、ドゥッカは苦、スカは気持ちがよい。これでやってください。

体得した人は原曲を話す

【参加者】

最近、マインドフルネス。結局、アジアではなくて、アメリカとか流行ったものが日本に来る流れで、ヨガとかやっている方が仏教とか関心・信仰なしに、お腹の瞑想だったり、アナパナみたいなのを一切の信仰なしにエクササイズをして、マインドフルネスやっている方というのが非常に多いのですが、そういう方は、因縁という意味では、非常にやらないよりはやった方がよいとは思いますが、もし瞑想の果というものを求めて、その方たちがやっていた場合には、それはどうなのでしょう？

【水源師】

まず無理ですね。それは商業ベースであって、求道の道とは違うから。アメリカの仏教のお坊さんが世界一、知っているわけですよ、問答したときに。この人はマレーシアで比丘に教え始めて、私がバン、バン、バーンと質問したら、回答できないわけです。というふうな経典仏教だけ、アメリカはやっています。アメリカでは、はっきり言って、瞑想者はいません、私の知っている限り。「知っている」と言っても、理論仏教で言うから、これは全部、偽物なのです。本当のことを知った人はベートーヴェンみたいに原曲で話すわけ。経典で話しません。それですぐ分かります。つまり、すばらしい歌手が歌っているか、歌手のまねをして、ものまねで歌っているか、ということがすぐ分かります。

【参加者】

瞑想を、正しいかを求める場合は、ちゃんとしっかりお釈迦様・仏陀へのエモーションを持ったうえで、もう全然、進み方が違いますよ、ということになっているのですか。

【水源師】

そうです。そういうことは、どうせやめてしまいます。結果が出ないし、もう地獄に入るみたいで、逃げ出します。

人間がまた人間に生まれるには

【参加者】

「人間が人間に生まれるのは難しい」という話があったのですが、今度、逆に人間がまた人間に生まれるためには、どういう条件が因果として必要なのか。

【水源師】

やはり法ですね。ダルマですね。

【参加者】

それを「学ぶ」のではなくて「瞑想として体験をする」という。

【水源師】

それです。体得しかありません。頭でダンマ、パンニャ（智慧）を1000冊、覚えても、意味ない、虎の巻。自分で数学を回答、たった一つの回答でもすれば、これが本物で、究極のブッダの教えが、そこの中に入っているから、間違いなく仏国に生まれて、そのチャンスがあります。だから、仏の教えというのは、ものすごく神秘的で本当に宇宙の宝です。私は幸い西洋に住んでいるから、結局ここまで分かったけれど、キリスト教の経典、イスラームの教え、それからユダヤの教え、そういうことをダーッと聞いて体験して、討議して、何が欠けているか、明快に分かったわけ。一般の人は何も分からないから、「西洋が何でもよい」と誤魔化されますけれど、実体はないのです。本当に陽炎のようなお城です。だから、ほとんどそういうことをやっている人は急激に年を取っていきます。本当のことをやれば、年がなかなか取りにくいし、病気にもなりません。



西方の仏（バガン）



水源禅師とパオ・セヤドー

水源禪師法話集 41
(2014年11月16日 東京法話会)

2015年10月21日 発行

編集兼発行 一乗会